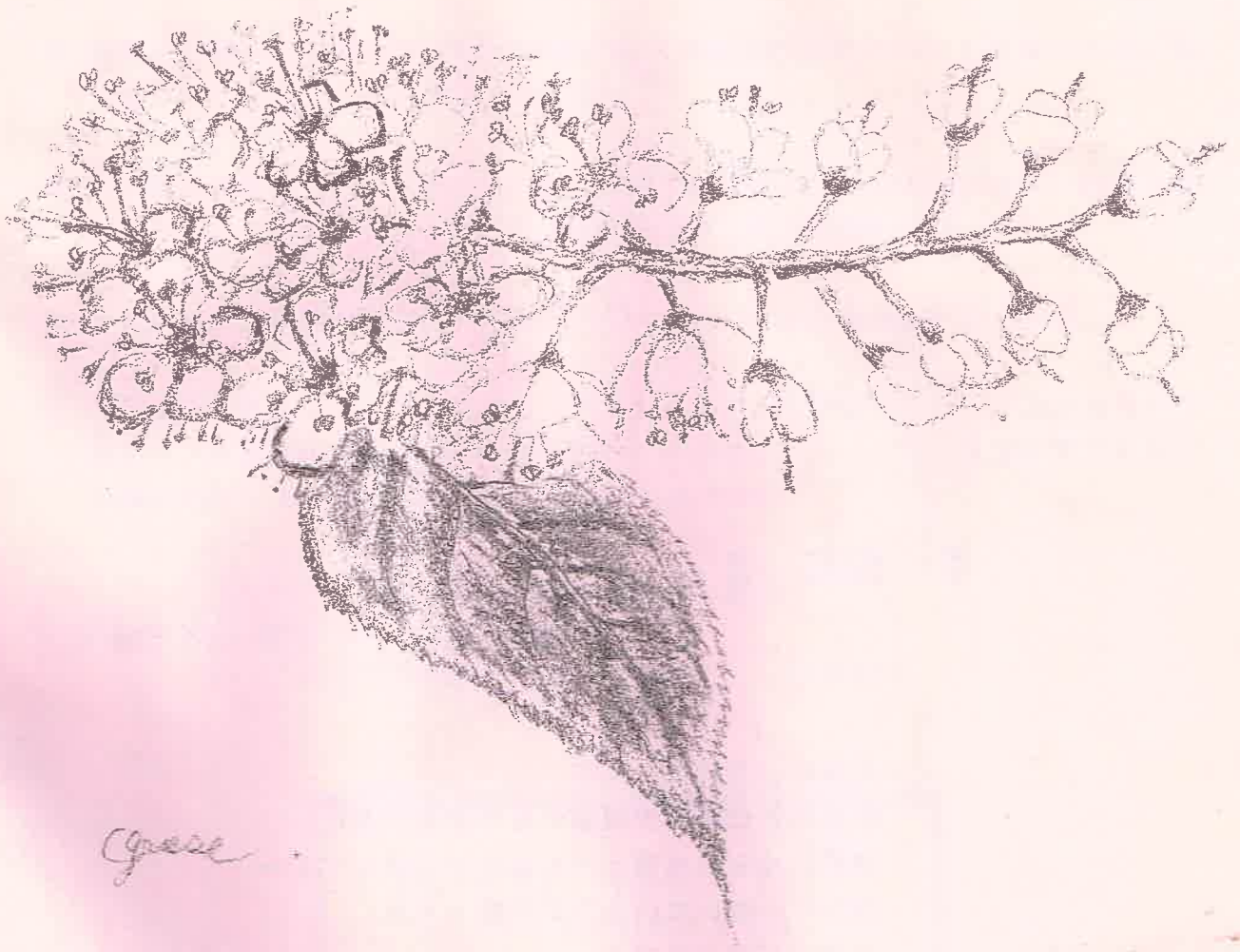


エバフツ



2015 夏季号 113

北海道ボランティア・レンジャー協議会

♪ 表紙 ♪

(絵と文) グローズ千鶴子

それは、それは、毎年
野幌森林公園の育種場からの曲がり角に
初夏の知らせを教えてくれるシンボルツリー
少しずつ咲いて出会うのが楽しみな
ウワミズザクラです。

夢を持ちましょう

春日 順雄

今年のボラレン総会の会長挨拶で話したことを中心として述べます。

26年度のボラレン活動のよかった探し。

一つ目は、観察会に沢山の道民が参加して下さったことです。

自然ふれあい交流館との共催観察会は9回行いました。道民の延べ参加者は501名。ボラレン主催の観察会は7回。道民の延べ参加者は80名。常連の参加者がいました。「いい観察会は、もう一度参加してみたいと思う観察会であること」を、モットーとするボラレンにとって嬉しいことでした。観察会案内が懇切丁寧、参加者の心に響く案内をして下さる会員が沢山いたからです。観察会の案内人として参加して下さったボラレン会員は延べ173名。本当に有り難いことでした。

二つ目は、「学ぶボラレン、学ぶ風土を持ったボラレン」の定着です。

自然ふれあい交流館と共催の観察会下見が本番前日にあります。下見出発の前、30分ほどを学び合いの場としました。話題提供者はボラレン会員。9回実施しました。会員参加者は延べ125名。集う楽しさがありました。学ぶ喜びがありました。いい学び合いの場として定着しました。

2月には、レベルアップ研修会を行いました。「森林がもたらす様々な恵み：生態系の科学」と題して、北海道大学農学研究院教授の中村太士氏の講演を聴きました。来年度からは自然ふれあい交流館がこの事業を引き継いで下さいます。

三つ目は、行動するボラレンということで特定外来生物防除の活動をしたことです。

オオハングソウ防除は、北海道開拓記念館総務課総務部・北海道森林管理局石狩地域森林環境保全ふれあいセンター・江別市清掃局・自然ふれあい交流館の関わりの中で実施しました。関わりの中での実施は連帯感を感じ、いいことでした。

四つ目は、地方の会員の皆さまの絆を深めたことです。

8月23日、苫小牧の谷口さんを中心にして、苫小牧北大演習林研修が行われました。胆振地方には多くのボラレン会員がいますが、住む範囲が広くて絆を深めることは難しかったのです。この日は沢山の会員が集まりました。これをきっかけとして苫小牧の榎戸さんが中心になり、今年度は6月14日、ウトナイ湖畔研修が行われます。よかった！沢山の会員の集まりがあるといいな！

7月19・20日、道北の芦田さんの発案で黒岳登山研修会。素晴らしい好天に恵まれ、いい研修会になりました。

9月6・7日、オホーツク支部は、白滝の黒曜石の露頭研修を行いました。去年はセトセ温泉で一泊し、その日に備えましたが大雨で断念。そして今年を迎えました。好天に恵まれいい研修の場になりました。セトセ温泉の名湯、そして、すぐそばを流れる川での釣りなど野趣に満ちた研修でした。

目 次

2015年 夏季号 113号

巻頭言	夢を持ちましょう	会長 春日順雄様	・・・1～2
総会時の研修会講演補足		富良野市 南部栄一	・・・3～5
研修会のお知らせ (オホーツク・道北・キノコ)			・・・6～7
観察会・研修会報告		札幌市 柳澤明子	・・・8～9
		釧路市 大日向倫子	・・・10～11
		様似町 井坂美保子	・・・12～13
		30周年記念講演会の案内	・・・13
		札幌市 中川孝子	・・・14
会員の活動		小樽市 高川 勝	・・・15～16
		むかわ町 門村徳男	・・・17
投稿		苫小牧市 谷口勇五郎	・・・18
		平取町 川村桂介	・・・19～22
		千歳市 宮本健市	・・・23～24
連載		札幌市 田村允郁	・・・25～26
下見時の話題提供		札幌市 井澤清美	・・・27～30
		千歳市 宮本健市	・・・31～34
自然観察NOW	NO.1	三輪礼二郎	・・・35～36
	NO.2	安倍 隆	・・・37～38
	NO.3	道場 優	・・・39～40
平成27年度 ボランティア・レンジャー育成研修会			・・・41～42
事務局便り			・・・43
編集後記			

ボラレン活動は順風満帆ではありません

沢山の「よかった」があった、しかし、ボラレン活動の前途は厳しい

ボラレン活動は、日本の世相の反映です。会員の高齢化が進んでいます。活動の中心の観察会案内人の確保が難しくなるかも。来たれ、ボラレンを引き継ぐ若き担い手。高齢化・道の財政悪化・人々の生き様の多様化など、ボラレン前途に立ちはだかる問題は複合的です。

ボラレン活動を継続するには

自転車操業であれ

自転車はペダルをこぐのを止めるとひっくり返ります。こぐから転倒しない。ボラレン活動は自転車操業であれ！活動している限りは転倒しないし、活動の喜びもあります。

ボラレン活動に「夢を持ちましょう」

「夢なければ民減ぶ」・「夢なければ墮落する」

旧約聖書にある言葉を引用しました。厳しいボラレンの前途を数え上げて活動の力にはなりません。今を生き抜く、今を活動するには「夢を持ちましょう」。そして、自転車操業であれ！実践的であれ！をめざしましょう。

「花燃ゆ」真っ盛り

NHK大河ドラマ「花燃ゆ」は、これからが山場です。吉田松陰なきあとドラマはどのように進んでいくのでしょうか。

吉田松陰は、「思想を維持する精神は、狂気でなければならない」と、述べています。思想という虚構は、正気のままでは単なる幻想であり、大うそに過ぎないが、それを狂気によって維持するとき、はじめて世を動かす実体になりうるというのです。

吉田松陰の狂気が明治維新を誕生させる。松陰の教えを受けた若者たちの狂気が見ものです。

司馬遼太郎の作品に「花神」があります。NHK大河ドラマにも登場しました。主人公は、村田蔵六（大村益次郎）です。司馬遼太郎は、明治維新を牽引する狂気が花咲くには、それを支える軍事費の調達など、極めて合理的・実務的に処する人物として村田蔵六の才気を大事に扱っています。

夢は実現させるもの。「夢を持ちましょう」は、吉田松陰の述べる「狂気」に通じることです。夢の実現には、「花神」に登場する村田蔵六のような、実務者・実践者が大事です。ボラレンの活性化を切に望みます。

第30回ボラレン総会研修会講演補足について

ボラレン受講No.56 会員No.2112 南部 栄一

昭和62年8月第2回ボランティア・レンジャー育成研修を受講してから30回と聞いて随分と経ったと言う感じと早くもと言った感じがしています。そしてこうした節目の時に講演させて頂くことに感謝の気持で一杯です。この度は2つのテーマについて話させていただきました。

1つはボラレンは全道を対象とする組織ですが実際は札幌近郊の会員が圧倒的に多いので活動も札幌中心です。

ですが生まれも育ちもその後の歩みもズーッと札幌近郊と言う方ばかりではないはずですし、その他の地区で活動、活躍の会員も多くいます。

そして会員各々自分のフィールドを持っているのでは？と思います。

山岳、原野、湿原、河川、湖沼、海岸等々です。そして各会員が自分の得意な地域での観察活動マップを創ることができればと考えました。

それは全道組織ボラレンの設立趣旨に添うことになると思っています。

5年毎に北海道新聞が取組んでいるフラワーソンに参加してその思いを更に強くしていました。

そこで自分は数年前から主な活動地域である芦別岳、富良野西岳、富良野岳、更に地球温暖化調査の大雪山黒岳、赤岳について花マップを創作してきました。かつては山と言えば山頂のみを目指すピークハンターであった自分ですがこの作業に取り組んでから登山道わきのひっそりと咲く花、同じ花群の変異種、雪解けと開花期の関係、風衝地と雪田地の植生、植生の消長、セイヨウオオマルハナバチやエゾマルハナバチの動向、忍び寄る地球温暖化の波等々について多く学ばせて戴きました。

その内、年に4～6回程通っている大雪山2山について皆さんに見ていただきました。この地域の調査は100年単位での調査なのですが調査協力員の高齢化が最大の悩みごとになっています。植物観察に造詣の深いボラレン会員の方の協力が得られたらの思いを込めて全道花マップ作成と植生調査の山岳として赤岳、黒岳の花々を発表させて戴きました。

この2山で変異種？はエゾオヤマノリンドウ、タイセツトリカブト、イワブクロ、イワギキョウなどで、いずれも青系が白系に、コマクサはピンク系が白系になったものを認められ、植生の消長としては調査地点(コマクサ平)の区画内で平成12年よりイワブクロとミヤマリンドウの消失が確認されました。

他の地域、山岳でもこうした変化のドラマは必ず起きているはずですし、観察調査に地域、地区は何処でもボラレンとして挑戦はいかがでしょうか？

次に日本百名山についてですが思い出の日記で振り返ると昭和27年(1952年)に釧路市の学校登山で雌阿寒岳に挑戦したのが最初でした。その後登山には全く無関心だったので昭和34年から「山と高原」と言う雑誌に作家の深田久弥氏が毎月2山づつ50回に渡り日本百名山として連載された。当時北大の学生であった自分はこのような雑誌や記事が新鮮に感じ食べるように読み挑戦したものでした。その後就職、結婚、仕事、子育てと中断していたのですが子供が巣立ってから、さて何をとなつた際に100山中75山程終えていた百名山を思い出し昭和60年頃から再挑戦となりました。この頃から毎年本州で一番天気に期待の持てる梅雨明け時期を中心に妻を同伴し登攀し続けました。

そして平成17年(2005年)7月28日南アルプスの赤石岳で53年がかりで深田久弥の百名山登攀を達成した訳です!

振り返って自分のような者が何故に百名山登攀を達成と考えると偶然か?たまたまか北海道から遠距離の山や踏破するのに日数を要する山、技術的に困難な山を若い時に登り終えていたことが最大の要素だった気がします。

更に職場、家庭の理解に恵まれたこと、次に時代の変化や要求で交通の便や登山用品の軽量化、山小屋の整備に恵まれ、健康であったことが考えられます。

ところで何故多くの登山家、作家が類似の記事、エッセイを書いているのに何故深田久弥の百名山を多くの登山愛好家が憧れ挑戦するのだろうか?

深田久弥は自分のような者が言うのはおこがましいが作家して書けども書けども売れず不遇でしたし家庭においても女性問題を抱えて登山は一種の逃避だったのではと思っています(この辺のことは 田澤拓也著 百名山の人 深田久弥伝 TBSブルタニカ に詳しく)。そんな深田久弥が自ら登攀し書いた一山一山についてそれを読んだ者がその山の山頂で!登山途中で!思い描く想いや情景が共感や共鳴を感じさせていると思っています。どんなに文明の利器が発達しようが準備をし、汗をかいて歩き、山頂での達成感、下山後の満足感等々時代を越えて人の心の琴線に訴えているのは作家である氏の力量故と思います。深田久弥は百名山について3つの選定の条件あげています。

①誰が見ても立派と感嘆する品格②人間との関わりの歴史③芸術と同じでその山だけが具えている個性をあげていますが、自分は次の2つを追加条件にと思っています。それは④自分で登頂した山から選定⑤標高1500m以上の山から選定(例外は筑波山と開聞岳)していることです。

更に作家として言葉、文章の上手さはより魅力的です!例をあげると

「一番好きな山は 一番最近に行った山である」

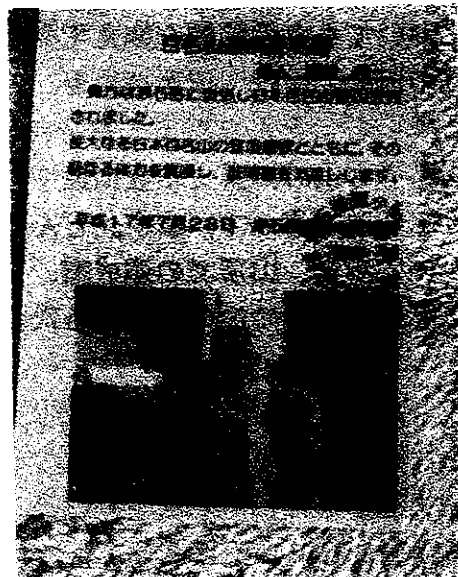
「山高くして尊きにあらず」

「百の頂に百の喜びあり、百の天場に百の宴会あり 百の残雪に百の喜びあり」

「日本人の心の底にはいつも山があった」等々百名山の一山毎に言葉があり、

読む度に登る度にその山の巻頭の言葉を噛みしめて反芻しています。
また百名山について何故この山が選ばれなかったと疑問の声も聞くが④の自ら
登頂した山から選定しているのだから当然で登っていない山を誰かの意見で選
定していたなら「深田久弥の日本百名山」にはならなかったはずです。
その点北海道には魅力の山岳があったらしく例として芦別岳、二ペソツ山、
カムイエクウチカウシ山、ペテガリ岳等を上げています。
更に自分は百名山踏破の経過で多くの方々との出会いがありました。立松和平、
小暮真望氏等々です。特に小暮真望氏は現在最高峰の版画家と1年毎の札
幌での個展には毎回のように妻と駆け付け目の保養をしています。
更に登山道、山小屋、山頂で同じ空間時間を共有した方々の思い出がその山の
名を見聞きする度に走馬灯のように思い浮かびます。
自分にとって最高の想いの山は唯疲労困憊した記憶の最初の雌阿寒岳と100
山目のしみじみとこれまでの登山人生の追憶に耽った赤石岳だと思います。

今この原稿を書いている最中に世界歴史遺産登録候補に山梨県韭崎市の反射炉
が選ばれているニュースが出ていますが、いみじくも深田久弥が亡くなった
茅ヶ岳は韭崎市にあるのですが何か縁のようなものを感じてなりません。
いつの日か自分の人生を思い出作りに物凄く影響を与えて下さった深田久弥の
生誕地加賀市と人生の幕を下ろした韭崎市には記念館、記念碑があるそうなの



で防れる心算です。

研修会では高山植物のスライド写真中心でしたので追補充の文としました。
今回こうした機会を与えて下さったボラレンの会員の皆様に感謝一杯です。

上記写真は赤石岳山頂の赤石岳避難小屋で百名山達成記念に頂いたものです

平成 26 年 5 月 31 日

各 位

北海道ボランティアレンジャー協議会
オホーツク支部長 和泉 勇

平成 27 年度オホーツク支部秋季研修会について

(ご案内)

日頃より、当支部活動にご支援、ご協力を頂き厚く御礼申し上げます。

さて、標記につきまして下記の通り開催いたしますので、お誘い合わせの上、多数ご参加下さいます様ご案内致します。今回は雄大なサロマ湖でのカヌー体験、ワッカ原生花園の自然観察を中心に実施致します。

記

- 1、日 時 平成 27 年 8 月 29 日 (土) ~ 8 月 30 日 (日)
- 2、集合場所 ネイパル北見 (旧常呂町かき島青年の家)
北見市常呂町字栄浦 365 番地 1 ☎ 0152-54-2584
- 3、宿泊先 同上
- 4、日程等
8/29(土) 13:00 集 合
14:00~16:30 現地研修 カヌー体験
(荒天時はところ埋文センター及びところ遺跡の杜を見学します。)
18:00~野外バーベキュー (雨天時も可能です)

8/30(日) 6:30 起 床
7:30 朝 食
8:00~現地研修出発
8:30~11:30 現地研修「ワッカ原生花園の自然観察」
12:00 現地解散
- 5、持ち物 野外活動に必要なもの・上靴 (スリッパ)・洗面用具・石鹸・シャンプー・ドライヤー (必要な方)・タオル・バスタオル・浴衣 (パジャマなど)
- 6、負担金 1名 5,000 円 (夕朝食・宿泊代・懇親会費)
朝食は施設で用意されます。
- 7、申込み期日 平成 27 年 8 月 5 日 (水)
- * 連絡先(申込み先) 網走市潮見 5 丁目 122-15 (☎・FAX 0152-43-1942)

ボラレン・オホーツク支部事務局 法師人 ^{ほしと} 春輝 ^{はるき}

E-mail hves-2012-3781@qb3.sor-net.ne.jp

【道北研修会】

ハガキにてご案内済みですが再度ご案内いたします。

- 1、目的 神居古潭変成岩地帯を歩く
- 2、日時 7月18日(土) 10:00～13:30(昼食持参)
- 3、講師 サイエンスボランティア旭川特別学芸員 中谷良弘氏
- 4、集合場所 神居古潭の橋の所の駐車場(札幌から向かうと一番目のトンネル手前の道を左に入る)
- 5、集合時間 10時
- 6、申し込みについて 7月10日まで キノコ研修会に同じ

【きのこ研修会のご案内】

今年度のきのこ研修会は、昨年に続き札幌市内の公園で実施することになりました。
ボラレンの皆様、ぜひご参加くださいますようご案内申し上げます。

(ハガキでのご案内はありませんのでご注意ください)

1. 目的 きのこの正しい知識と見分け方を学ぶ。
2. 日時 9月14日(月) 9時30分～11時30分 小雨決行
3. 研修場所 旭山記念公園 札幌市中央区界川
4. 講師 松原健一氏(会員)
5. 集合場所と時間 旭山記念公園駐車場(入口ではなく上側の)に9時30分
6. 公共交通機関 地下鉄円山公園駅からのバス時間
旭山記念公園線 行き 9時13分、 帰り 11時36分、 12時53分
7. 申し込みについて 9月11日まで 研修部 菅美紀子 電話・FAX 011-611-1285
メールアドレス sugamiki@abox6.so-net.ne.jp

ボラレンの皆様へ

27年度のボランティア・レンジャー育成研修会のPRをお願いします。

(詳細はページ41～42をご覧ください)

研修部

自然の中での異世代交流

春のありがとう観察会 2015年5月10日
札幌市東区 柳澤明子

年に数回、家族で訪れている野幌森林公園。久しぶりにそろそろ行こうかと話していた時に、ちょうど新聞で「春のありがとう観察会」が開催されることを知りました。野幌の森を歩くだけでなく、観察会に参加でき、さらにゴミ拾いにも寄与できるということで、先日「大きくなったら森を守る人になりたい!」と言い出した6歳の長男にぴったりのイベントだと思い参加を決めました。

当日は到着が遅れ、すでにスタートしていたグループに合流させてもらおうとしましたが、聞けばなんと約6キロの道のりとのこと。小さな子供には難しいかもしれないとのご心配をいただきました。確かにそんなに長い距離を、我が家の子供達は歩いたことがありません。それでも、疲れたら途中で引き返すつもりで一緒に歩き始めました。

新緑の森の中を、そして最近ではマナーも向上してゴミもほとんどないでしょうという事前の説明通り、ゴミのない森の中を、咲く花々や鳴く鳥々についてボランティア・レンジャーの方の説明を受けながらの散策は、気持ちがよく、心身がどんどんリフレッシュされるのが実感できました。その一方で子供達の様子も気になります。すぐに疲れると言い出すのではないかと、うるさく騒ぎ出すのではないかと、泣き出すのではないかと、など。しかし、そんな私の心配をよそに、長男は話を聞き逃すまいと親から離れても気にせずレンジャーさんのそばについて先頭を歩いています。そして、4歳の次男はいつの間にか同じグループの参加者の男性と手をつないでおしゃべりしながら歩いているではありませんか。二人とも野幌の森と観察会をすっかり楽しんでいる様子です。途中でおなかが空いて泣いたり、抱っこが必要となったりする場面もありましたが、二人ともおおむね全ての行程を歩ききることができました。子供達は、何人もの方に手をつないでいただき、おやつをいただいたり、笹の新芽の笛の吹き方を教えてもらったり、終始声をかけていただき、同じグループの皆さんには本当によくしていただきました。たまに見つかるゴミを拾う役目もいただき、約6キロの行程を歩ききったことは、子供達にとって大きな収穫となりました。

同じグループの参加者の皆様の子供へのご理解とお気遣いのおかげで、子供達も楽しい時間を過ごすことができました。一日ではありましたが、孫のように皆様からかわいがっていただけたこと、深く感謝いたします。核家族の我々にとって、普段体験する機会がない異世代交流の場となりました。今回の「春のありがとう観察会」、野幌の自然を満喫できたことはもちろんですが、人との交流をおおいに満喫できたと感じています。

また、レンジャーさんにおかれては、その深い知識を時にユーモアを交えながら、子供にもわかりやすく、惜しみなく教えていただき、楽しく有意義な観察会にしていただき、感謝しています。

また皆様とご一緒できる機会があることを楽しみにしています。



子供達は親から離れて、春の野幌の自然と参加者との交流を楽しみました

花のアポイは初夏の風

様似研修会・アポイ岳登山(2015・5・16~17)に参加して

釧路市 大日向 倫子

5月16日早朝、少々疲れの出で来ている愛車マークIIを叱咤激励しながら釧路の街を出た。十勝野の青空と緑の彩りに優しく迎えられ、まずは快適ドライブのスタート…と思いきや浦河入りで受けた激しい濃霧の洗礼は、まさしくお先真っ白で様似までの行程に少なからずの不安を抱かせた。こんな時の為にと願った助っ人と素早く運転交代、はれて私は助手席の人となる。「初めての町だね」「あの奥に見えて来た山がアポイじゃない？」こんなにサーチを楽しみながら、研修センター着。ひと昔前のユースホステルを思わせる館内、「まずは掃除機でカメムシを吸い取ってから部屋を使用して下さい」の声に初参加の私は何かと戸惑いつつも、本日の目的である笹刈り作業開始へと向かうのであった。



エゾオオサクラソウに出迎えられ、ササ刈&植生調査(5合目付近)

～出合いも楽し、高山植物群～

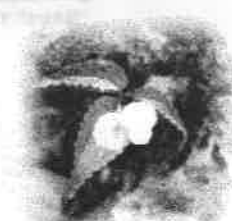
翌17日はいよいよ本丸、アポイ岳山頂を目指した。前日の笹刈り&プレ登山の後遺症もないメンバーは行く手で出合う可憐な花達に歓声 **ヒダカイワザクラ** をあげつつ、図鑑を手に花の名確認へと躍起。やはり人名と同じで花も名が分かるとより親しみ

と愛おしさの様なものが生まれてくるから不思議。

所々、網カゴ状の緑の容器が置かれている光景を問うとシカによる被食の実態調査とか。人に踏まれるだけでなく、シカにも荒らされる美しい山の現実は今後登山を超えて広い視点での対策課題が望まれよう。



調査ネット



エゾキスミレ



☆道東からでも行動出来そうな日程で「初参加」した後の辛口コメント☆

♡熊笹刈り後の地元関係者による「アポイミニ講座」はGood！

♡会員のみでなく今後一般参加も募る際は一応登山も含む以上、リーダーによる簡単な事前レクチャー的な要素、統率も必要では。(多人数参加時)

♡親睦会と活動行事との線引き……等々。

往復運転を担い、私の保護者？として同行してくれた相棒のひと言。

☆ “良い仲間と新しい発見、後半人生輝くね！” ☆



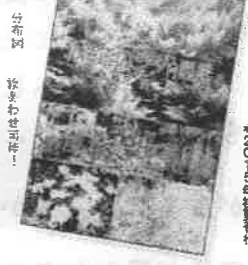
❁ 梅沢俊さんの『北海道のシダ入門図鑑』は6月24日から店頭にて発売されました。

北海道のシダ入門図鑑

梅沢 俊著 日経刊 148頁・定価3400円(本紙)

初心者から研究者まで
使えるシダ図鑑決定版！

130種の名前が絵あわせてわかるカラー図鑑。
“花のソムリエ”梅沢俊が自信を持って贈る初
心者向けシダ図鑑の決定版。全形と部分写真
を多用し、さらに引き出し線を用いて視覚と的
確な文で注意点が理解できるように工夫した。
“絵あわせ”で種名にたどりつける図鑑。



北海道大学出版会

〒060-0810 北海道札幌市東区北七条東五丁目1番1号
TEL 011-645-2411 FAX 011-645-2404
E-mail: hup@hup.or.jp URL: http://www.hup.or.jp

【著者紹介】

梅沢 俊 植物学専攻
北海道大学農学部農学博士 准
教授。植物学専攻主任。2007年
12月より、北海道大学農学部
北海道大学図鑑センター主任。植物学博士
論文「シダ植物の系統と進化」で博士号取得。

※最寄の書店、または小倉へ直接ご注文下さい(送料別)

注	『北海道のシダ入門図鑑』を1冊、早稲田大学	日	6月24日から
文	学館書店	性	店頭販売に
書		印	なります。

「エゾシカ話をさせて頂きました！」 2015年5月16日 様似町・井坂 美保子

みなさん、はじめまして。福岡県出身、現在は様似郡様似町在住の自称博多美人、井坂美保子です。アポイ岳ジオパークビジターセンターで勤務をしております。

私は、18歳の頃、江別市にある「酪農学園大学」進学を期に北海道に来ました。その大学で「野生動物管理学」という学問を専攻していました。野生動物管理学とは、野生動物を管理・保護していく（少しおこがましいですが）、言わば「地球のお医者さん」のような学問です。現状で起こっている野生動物と人間との軋轢、生態系破壊のことを学んでいく上で改めて、「人間のせいやん」と思いました。人間のせいで、「外来種（その地域にもともといない動物）」と呼ばれる動物達が悪者にされ「在来種（その地域にもともといる動物）」であるシカやクマも悪者にされている。でも、このまま「外来種問題」も「在来種問題」も放置すると更に多くの野生動物や森林が破壊されてしまうと感じました。「誰かが尻拭いをしなければ。」と変な使命感に駆られました。保護・管理と聞けば、言葉は立派かもしれませんが、残念ながら、動物を殺してしまわなければならない時もあります。人間のせいで、増えたり減ったりしてしまっているのに、殺さなければならないのは辛い。なるべく命を無駄にしない方法はないのだろうか。と思った時に「狩猟管理学」というものに出会いました。それは、狩猟を用いて野生動物を保護・管理する。という学問でした。研究対象は主に「エゾシカ」でした。シカは在来動物ですが、増えてしまった為植生の破壊が起こっています。それだけではなく、農林業被害や車両事故など起こっており、人間との軋轢も深刻です。エゾシカをただ駆除するだけではなく、肉も革もなるべくなら活用してあげよう。自分で猟銃を所持し、「美味しく食べて環境保全」を目標にするようになりました。

大学3年次、自分の卒業論文はエゾシカの何を書いて、調査地はどこでやろうかなあ。と書いていたら、たまたまお酒の席で知り合った北海道庁職員の方に「アポイ岳に登れば？楽しいよ！」と言われ、「はい！行きます！」とノリで答えましたら、いつの間にかアポイ岳でエゾシカによる植物の食害調査を行っていました。そして現在、臨時職員ですが、様似町のアポイ岳ジオパークビジターセンターで働いております。

今回みなさんの前でお話をさせて頂いたきっかけは、当施設の学芸員から「なんかシカの話して」とお話を振って頂いた事です。当日の会場は和気あいあいとした雰囲気、楽しくお話させて頂くことができました。エゾシカの生態のこと、習性、食性のこと、エゾシカと人間との軋轢についてお話させて頂きました。エゾシカはアライグマのような外来種とは違い、北海道にもともといた動物なので、根絶はしてはいけません。かと言って、増えすぎもダメなので、そこそこの個体数を維持していかなければならないという、果たして人間に出来るのかどうか怪しく、大変難しい事をしなければなりません。が、何もしないよりか幾分、マシになるのかなと思います。

今日では娯楽施設も増え、狩猟を楽しむ文化というものが無くなりつつあります。その

ことにより若手のハンターが減少しています。野生動物研究者の間では「ハンター（狩猟者）は絶滅危惧種だ」と言われています。野生動物の保護・管理をする上で狩猟者という存在は欠かせないものです。今までは、狩猟を楽しむ、「趣味のハンターさん」に頼ってきましたが、趣味の狩猟だけに頼る事も限界に近付いています。今後は野生動物管理も担える若手の狩猟者が必要になってきています。その一人になれるように今後とも精進していこうと考えています。

講演会のお知らせ

当協議会は、北海道が主催するボランティア・レンジャー育成研修会の受講者によって構成され、自然観察会を通じて自然に親しみ自然を愛する考えの普及啓発に努めて参りました。

このたび、会が発足して30年の節目を迎えるにあたり、記念講演会を開催することといたしましたのでご案内いたします。多くの会員の皆様に足をお運びいただきますようお願い申し上げます。

記

北海道ボランティア・レンジャー協議会 30周年記念講演会

1 日 時 10月24日(土) 15時00分～16時30分

2 場 所 北海道開拓の村 ビジターセンター講堂

札幌市厚別区厚別長小野幌50-1

TEL 011-898-2692 FAX 011-892-2694

3 講 師 梅沢 俊 氏 (植物写真家)

4 演 題 調整中

5 参加費 無 料
 ・要申込、後日はがきで連絡します
 ・一般にも周知しますが、ポラレン会員を優先します

6 アクセス

自家用車の場合 会場周辺に無料駐車場有り

バスの場合 新札幌駅バスターミナル(北レーン10番乗場)から
 開拓の村までJR北海道バス運行

新札幌バスターミナル	開拓の村	開拓の村	新札幌バスターミナル
13:00	→ 13:15	16:40	→ 16:55
14:00	→ 14:15	17:10	→ 17:25
		17:40	→ 17:55

三角山登山観察会

2015年5月24日日曜日 晴れ（やや強風） AM9:30

札幌市 中川 孝子

三角山登山口に続々と山ガール、山ボーイが集まって来ました・私は散策会のような催し物に初めての参加だったので、やや緊張しながら開始時間を待っていました。

参加者20数名だったので、ざっくりと班分けをしてAM10:00出発。私の班はリーダーと他5名、6人で最後尾の班として出発しました。私自身、三角山を登るのは約10年ぶり。登り始めてまもなくヤマシャクヤクに出会いました。私はヤマシャクヤクを見るのは初めてでしたが、こんなに花の状態がいい時に見られるのはラッキーだと、説明していただきました。私の班のメンバーは好奇心高めだったので、数歩進むと「これ何？」とボラレンのリーダーを引きとめ、説明していただいていた。

そんなこんなで気が付いたら他の班との距離が広がり……。このままでは時間内に目的地、大倉山山頂にたどり着けない！！という危機感から少し足早に、まずは三角山の頂上を目指しました。眺めの良い三角山の頂上で小休憩をとったあと再び大倉山山頂を目指した出発。タイムロスをかなり埋めたのでまたゆっくりじっくり、花や木を見ながら進みました。予定通りの時間に大倉山頂上にたどり着きお待ちかねのお昼ごはんを食べ、しばし休憩。5月のさわやかに晴れた札幌の街並みを満喫し、元気をとり戻して下山開始しました。

ここに来るまでギンリョウソウや、チョウセンゴミシ、ユウシュンランなど私が今まで出会わなかった植物に出会いました。円山周辺はたまに歩くのですが、こんなに近いのに出会う植物がこんなに違うのが驚きです。

「シラネアオイ、咲いている」と前評判を聞いていましたが、花の時期には少し遅く、花は終わっていました。それでも、思っていたより数が多く来年また見てみたいと思いました。

PM2:30 ほぼ予定通りに下山し、解散しました。初めての参加でしたが楽しかったです。ここには書ききれませんが、色々な植物に出会えました。円山と三角山が近いのに違うことも知りました。

また機会があれば散策会に参加したいと思います、今回はありがとうございました。

自然の真ん中で育つ子どもたち

小樽市 高川 勝

小樽市張碓にある「NPOかもめ保育園」と子どもたちの日常を紹介します。

往時に比べれば、園舎の周辺も市街化の波に洗われていますが、まだまだ充分な「田舎」が残っていて、子どもたちは給食と午睡の時間以外は余ほどの荒天でない限り屋外で遊びます。そこで、泥にまみれたり、草花や小さな虫などに触れたり、丸ごとの自然を満喫します。その上、盛夏の2か月は海の家に、厳冬期の1か月は山小屋に…と保育場所を代えて、それぞれの季節がもたらす恵みを濃密に享受しています。

春 — 芽吹き山野へ

雪解け水が流れ、草や木が芽吹くころ、外へ飛び出した子どもたちは、春の幸、山菜を求めて目をこらします。ツクシ、フキノトウ、ヨモギ、笹の子、フキなど、目ざとく見つけて採り始めます。それらを園舎に持ち帰って、子どもたち自身が調理して、昼食のおかずにししたり、おやつに食べたりして自然がもたらす幸を味わいます。山菜を摘み取ったり、皮を剥いたり、切り刻んだりすることで手指を自由に操れるようになっていくといいます。

山菜で最も盛り上がるのは「山菜パーティー」。親子絵出で山菜を採り、調理し、園内のホールと園庭いっぱいを使って、あらゆるメニューで自然の恵みを味わいます。

夏 — 潮風を全身に浴びて

一日中、海に跳び込み、砂を掘って遊ぶ夏。子どもたちは捕まえたエビをムシャムシャ食べたり、貝を採って汁物の具にししたり。(エビも貝も漁師さんは漁獲対象にしていないので、大目に見てもらい… (^_^))

「今日の海は静かだね」などと海を眺めているうちに海面が単に青一色ではなく、太陽光や海底地形などを反映して微妙な色味の違いや濃淡があることに気が付きます。「アッ、

あすこ、象に見える！」とか「キリンさんだ！」などと、海面に「描かれる」色や形を発見していきます。

海辺を吹き渡る風にも、「今日の風、気持ちイイー！」「少し怒ってるみたい」「強い風、おっかない」などと反応します。

ザーザー降る雨、シトシト降る雨、音も無く降る雨 — ‘雨も色々だなあ’

ホワーッと体を温めてくれるような陽気、肌を突き刺すような寒気 — ‘空気はいつも違うんだなあ’

自然の中にいると五感が磨かれていき、自然の様々な「顔つき」や「物腰」を感得し、それを素直に表現できるようになる。感性が繊細になると同時に、それを表現するための言葉が生き生きしてくるのだそうです。

秋 — 生命の不思議に触れる

秋になると、筆者の持山である「ワオの森」に遊びに来ます(ワオはアイヌ語でアオバトの意)。熊の出没に神経をとがらせる季節でもあり、保育士はみんな「熊スプレー」を携行します。入山前に、ヒグマの習性や出会った場合の心得などを話しますが、

「知ってるー！ 走って逃げたらダメなんだ」などと言う。毎度の注意を覚えているのです。

歩き始めて、サア、ボラレン会員・高川オジさんによる解説の始まりだ～。

オジさん「この木の名前は…」

子ども「サクラ！ 春に花が咲いてた～！」

「そうだね。でも、もう葉っぱが散ってしまってる。だけど…」

「もう、芽が出てるんだよ」

(それ、オレが言おうと思っていたのに…)

イタヤカエデの翼果を手に、

高川オジさん「これ、面白い形だね…」

子ども「クルクル回って、飛んで行くんだよ！」 (また、言われてしまった)



「ワオの森」 大山航平（当時5歳）

枯れたオオウバユリが群生している。植物の生き残りをかけた息の長いドラマを語る格好の材料である。

高川オジさん「これはね…」

聞くが早いか、2～3人の子どもがオオウバユリに駆け寄って、激しく揺らし盛大に種子を舞い散らせる。（ワーッ、いきなりフィナーレか。もう、勝手にやってくれ～！）

子どもたちには、自分が知っていることを仲間を示したい、そして知識を共有したい、という強い思いがあるのです。

だから、遊歩道に残る鹿の足跡を示すと、「鹿の足跡だって！ みんな見てごらん！ 踏むんじゃないよ！」と、興奮しながらも後続に伝えようとするのです。

森の最上部にあるアスレチックに着いたら、もう、ひたすら遊ぶのみ。急斜面を駆け回り、倒木の上をバランスをとりながら登り下りする、樹間を結ぶロープを渡る、上から垂れる4mほどのロープを登る、などなど。遊びに来るごとに、筋力や敏捷性、バランス感覚がアップしていくのが見てとれます。

冬 — 雪を漕いで「えっさ、えっさ」

冬のある日、4～5歳の子どもたちが雪を漕いで「ワオの森」の斜面を賑やかに登っていきます。椎茸のホダ木用の木を伐り、麓まで下ろすためです。

高川オジさんが、これから伐り倒す木を指して、「この木は…」と言いかけると、例に

よって「ミズナラ！」と機先を制されます。

「そうだね。もう30年以上も生きてきたんだ。これから伐り倒すけど、死んじゃうわけじゃないからね。切り株から新しい命が育ってくるから、大丈夫！」。そんな前口上を述べて伐倒します。木が音をたてて倒れていくとき、子どもたちが思わず発する「ワーッ！」という驚きの声…、やがてオジさんに注がれる賞賛・尊敬の眼差し…、‘やめられねえ～’という気分になります（^_^）

伐り倒された木に子どもたちが「Myノコ」を手に近寄ります。

まずは、高川オジさんがノコの扱い方を説明し、次いで、キャリア1年の「年長」がノコ切り初体験の四歳児にマンツーマンで指導し、枝払いに取り掛かります。

最初はなかなか切れずに悪戦苦闘する子が「木って、固いなあ。木も頑張ってる」と思いを洩らします。そのうちに、「切れた、切れた！」という歓声がひっきりなしに上がります。‘してやったり’という得意げな顔、「見て！ 見て！」と切り落とした枝を誇らしげに掲げる子。木を伐るという単純な行為が子どもをいたく興奮させます。

枝払いが終わった木を、径10～15センチほどのところで7～8メートルの長さに切ってロープを掛けてやると、子どもたちが「せえーの！」と声を掛け合って麓まで引きずり下ろします。

現在の年長組はここまでやり終えて卒園していきます。5月の初めころ、新しい年長が菌を植え、秋にはみんなで収穫して食べる。シイタケづくりはめぐりめぐっていきます。

春はもう少し先…という小雪が舞う日、ぐずって雪面に座りこんで泣いている一歳児に、保育士が「サア、お家へ入ろう！」と呼びかけています。手っ取り早く抱きかかえて連れて行ったりせず、辛抱強く待っています。草木の生長を見守るように、子どもたちの「自然」に期待しているかのように見えました。

かもめ保育園ホームページ <http://npo-kamome.org/>

鶴川河口通いにはまって (シギ・チドリは報告もしなければ)

むかわ町 門村徳男

鶴川河口通いにはまって早 13 年目になります、それは私が定年退職しました春からです。何故かって、健康のため歩いたほうが良いためでもあり、あまり鳥数は多くないですが、シギ・チドリ類を見て今日は何が出るか？期待感を持ってまた行きます、また河口の状態も季節により変化もあります。

春はシロチドリ、コチドリから始まって、次は何が来るか、今年は 3 月はゼロでした、例年ならハマシギ位は最低でも見れるのですが、何故か越冬のハマシギも 2 月のうちに見えなくなりました。

4 月はコチドリ、シロチドリ、メダイチドリ、トウネン、ツルシギ、アオアシシギ、タカブシギ、イソシギ、ダイシャクシギ、チュウシャクシギ、タシギ、オオジシギの 12 種です、5 月はコチドリ、メダイチドリ、ムナグロ、ダイゼン、キョウジョシギ、トウネン、オジロトウネン、ハマシギ、ミユビシギ、アカアシシギ、アオアシシギ、キアシシギ、イソシギ、オグロシギ、オオソリハシシギ、チュウシャクシギ、オオジシギ、ツバメチドリの 18 種でした。

このように季節により見れます鳥が変わります、又同じ鳥でも季節により羽色が異なります、夏羽と冬羽の違い、又同じ時期でも個体により生え変わりの早い物、遅い物の違い、種によって雄、雌での違い、成鳥、若鳥、幼鳥との違い、春なら 4 月 5 月が多く、秋なら 8 月 9 月が多いです、8 月が秋ではないって、鳥の秋は子育てが終わって 7 月からもう渡りが始まるものもいます、春の多いのは 5 月がもっとも多くその次が 4 月、秋は 9 月がもっとも多く、その次が 8 月、10 月、7 月と続きます。

年間ではシギ・チドリの種類は、少ない年で 25 種、多い年で 35 種でした、12 年での記録は 48 種でしょうか、ほんの一部は第三者の記録も載せてあります。

またついでに他の鳥も見ます、カモメ類、カモ類と草原の鳥も、カモメも季節により見れる種が変わります、何時でも見れるのはオオセグロカモメ、冬に見れるのはシロカモメ、ワシカモメと変わります。季節によりウミネコ、カモメ、ユリカモメ、ミツユビカモメ、またズグロカモメ、トウゾクカモメも見れました。

ガンカモ類では、コブハクチョウ、オオハクチョウ、コハクチョウ、シジュウカラガン、コクガン、マガン、サカツラガン、ヒシクイ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、コガモ、シマアジ、トモエガモ、オシドリ、ヨシガモ、オカヨシガモ、オナガガモ、ヒドリガモ、アメリカヒドリ、ホシハジロ、オオホシハジロ、ホオジロガモ、キンクロハジロ、スズガモ、シノリガモ、コオリガモ、クロガモ、ビロードキンクロ季節により種も変わり多い少ないもあります。

初春のウトナイ湖探鳥会

苫小牧市 谷口勇五郎

3月21日、某会のウトナイ湖探鳥会に参加しました。ベテランリーダー1名と参加者など10数名でした。朝方は霧が濃かったのですが、9時半のスタート時から徐々に晴れてきました。鳥獣センターの駐車場に集合、カササギが遠くの方を飛んでいました。数日前の道新で苫小牧周辺にいるものは、DNA解析でロシア極東地域のものと同一とのこと。今年、この鳥は拙宅近くの小公園で巣作りをしています。カラスのものに似ていますが、下面がかなり厚く見えます。



ヨシガモ

鳥獣センターの左側、湖岸の東屋に望遠鏡をセットして始めました。遠くの方にカモの群れ、マガモが多く、ヨシガモもいるという。誰かが「ナポレオン帽のような頭で、お尻はポッチャリしているぞ」。4~5羽もいました。シロカモメが1羽、初列風切の先（尾羽ではなく）が白いのが特徴という。頭が特徴的なカワアイサも見られました（尚、この湖にはウミアイサも見られるという）。

ガン類について、今年は、ウトナイ湖にマガンが6万羽（8日）来ていたが、数日後には一気に2千羽ぐらいに減少したとの新聞記事、次の中継地の宮島沼（美唄）へはまだ行っていないという。今年は、ウトナイ湖の氷の融ける時期が早く、他の河川も融け、ねぐらを分散したのではないかとのこと。日中、マガンは厚真・早来・鶴川などの畑や水田に出かけ、落穂などを食べ、日が沈む頃にねぐらのウトナイ湖などに群れてもどる。翌朝、日の出に餌場へ一斉の向かうという。16日の朝、6時半少し前、植苗辺りをJRの窓からマガンの飛ぶ群れや、地上で地面の出かかったところに数羽いるのを見ました。ヒシクイの方は、日中、湖に残って水中の草を食べているものもいるという。10羽ぐらいの群れが飛んで来て「ガハハン」と低い声で鳴きました。マガンの方は「キャハハン or カリカリ」と高い声で鳴きます。

オオワシはオホーツク海の北岸やサハリン北部で繁殖し、北海道は主な越冬地、翼の後方が膨らみ尾羽は長め、オジロワシはユーラシア大陸中高緯度地方で繁殖、北海道では一部繁殖や越冬、翼は長方形で尾羽は短い。オジロワシは数回上空を飛び、オオワシは対岸の樹上でじっとしていました。帰りにも同じ場所にいたので、1時間も動かなかったことになります。双眼鏡でも白い肩がはっきり見えました。

ミコアイサの♂は頭が白く、並んでいる♀は茶色に見えました。

ネイチャーセンターの餌台にはハシブトガラやシジュウカラが来て、ヒマワリの種子を食べています。ミヤマホオジロの♀が1羽来て、白米を盛んに食べています。居ついているという。長時間見ていたのは初めてです。♂やカシラダカも来たが1日しかいなかったそうです。帰り道、ウが飛んで行きました。くちばしの付け根の形がどうの、ということになります。飛んでいる時では全く分かりません。ウミウの翼の位置は体の後方にあり、カワウは中央にあるそうです。今、飛んでいたものはウミウと言う。探鳥会で多くのリーダーの方々は、鳥がチラッと飛んだり、鳴き声が聞こえると、すぐに種名を言ってくれます。全く驚きです。どうすればそうなれるのか聞くと、「慣れだね」と言います。種名だけでなく、その生態についても詳しく話してくれるリーダーは有難いと思いました。

2014年度 新しく出あった植物から思うままに

平取町 川村 桂介

週に2～3回は体力維持のために「一日 一万歩」を目標にして、沙流川堤防沿いなどを1時間から1時間半位歩いている。いつも大方同じコースを歩くのであるが、毎年のように今まで気付かずに見過ごしてきた植物や新しく入ってきたと思われる植物たちに出あうのである。

今年も赤紫の花を付けるメドハギの仲間やカミツレの仲間など4～5種類の植物と出あうことができた。

1. 散策路の堤防や農道で

《 トウクサハギ 》

沙流川や額平川の堤防やそれらの枝川には、カラメドハギやオオバメドハギが早くから帰化していて（昭和53年に確認）現在も増え広がっているが、今年も散歩の途中にやはりメドハギの仲間赤紫の花を付けるトウクサハギに出くわした。この3種類のメドハギは、どれも朝鮮や中国を原産とする植物である。沙流川流域でこのように朝鮮や中国原産の植物が見られるのは、河川工事の後に剥き出しになった堤防の災害防止や緑化のために散布される種子として、韓国産・中国産のものが使用されていることによるのであろう。韓国や中国のものは、日本の種子よりもそれを収集する時にかかる人件費が安価だということで各地で多く使用されているのである。沙流川で実際に使われたかどうか確認はしていないが、使用されたことはまず間違いないであろう。

さて、堤防沿いには、本来なら北海道にはない植物が数多く自生している。マルバヤハズソウやルリハッカ、ツルマメ、それにヨモギ科のヒメヨモギ、カワラヨモギ、ヨモギ、ヤブヨモギなどである。それらの植物はどれも本州や九州、朝鮮、中国などで普通に見られる植物である。工事後の緑化や災害防止のために韓国や中国からの種子が使用されているとすると、これらの植物は本州や九州などに生育する在来種が持ち込まれた（移入された）とするよりも、韓国や中国から渡来してカラメドハギやオオバメドハギなどと一緒に平取町の環境に適応しながら定着繁殖し帰化している外来種と考えるのが妥当であろう。

また沙流川流域には、昔から北海道にも自生しているツルヨシやススキ、オギ、イグサなどが群生し、オトコヨモギやイヌヨモギ、キジムシロ、アキノエノコログサなども見られるが、これらの植物も日本だけでなく朝鮮や中国にも生育しているのである。したがって、堤防で見られるツルヨシやススキなど上記の植物達は、昔から北海道に生育している在来種と朝鮮や中国から散布種子

として入ってきた外来種とが混ざっていたとしてもなにもおかしくないのである。それにたまに出くわすことのある北海道固有種になっているイワヨモギだって、これまた朝鮮にも中国にも生育しているのである。それゆえ古来から北海道に生えている植物だからといって、それらを全て在来種だと即断することはできないだろう。場所によっては、そこに生えているツルヨシはほとんどが外来種だということも有り得るのである。これらの植物の在来種か外来種かの判定には遺伝子段階まで調べることが必要である。トウクサハギが出てきてからというもの、これらの思いを一層強く感じるのである。

	花の色	萼裂片	小葉
メドハギ	淡黄色	1 脈	網状脈は不明瞭
カラメドハギ	白	3～5 脈	網状脈は鮮明
オオバメドハギ	黄緑色	3～5脈で、尾状に伸びる	
トウクサハギ	紅紫色	3～5 脈	

《 キゾメカミツレとアレチノチャヒキ 》

2013年に護岸工事が行われた所に1年経って見に行ったところ、今までなかったキゾメカミツレとアレチノチャヒキが見つかった。

キゾメカミツレはシカギクに似るが、カミツレモドキ属には花床に鱗片がありシカギク属にはそれがないことで容易に区別できる。シカギクは海岸周辺でよく見られる。

キゾメカミツレとカミツレモドキは同じカミツレモドキ属の植物で、前者は揉むとキクの香りがして後者は嫌な悪臭がある。

カミツレモドキは平取町に早くから帰化していて、紫雲古津から二風谷にかけて国道の両側にシャグマハギやブタクサなどとともに帯状に連なって生え出ているのが見られる。カミツレモドキもキゾメカミツレも地中海、イラン、コーカサスが原産地である。

アレチノチャヒキはウマノチャヒキと非常によく似ているが、やや大きめである。ウマノチャヒキは汐見の市街地や海岸に群生しているなど北海道ではやや普通にみられるが、アレチノチャヒキはまだ少ないようである。どちらも原産地はヨーロッパである。

	花 序	小 穂	芒
アレチノチャヒキ	10~20cm	25~35mmと大きい	15~30mmと長い
ウマノチャヒキ	10~15cm	12~20mm	12~15mm

《 ホソバアキノノゲシ 》

アキノノゲシは上部の葉は小さくて全縁で、下部の葉は大きくて羽状に欠刻または深裂するが、ホソバアキノノゲシは全ての葉が全縁で切れ込みがない。農道の法面に2m位に伸びながら群生。てっきり外来植物かと思いつち帰ったのであるがアキノノゲシの変種であった。学者によっては全縁のホソバアキノノゲシも含めてアキノノゲシで一括し、分けない方もいる。しかし、生え出ている様子は分類分けした方がいいくらい別の植物に見える。こんなに沢山生えているのに、どうして今まで気付かずに見すごしていたのだろう。花だけを見て思い込みで対応していたことに反省しきりである。

《 エゾミズタマソウ (ヤマタニタデ) 》

ミズタマソウにそっくりで、林に隣接する田んぼの縁の畦溝で見つけたものである。萼片の赤いのがよく目立つ。違いは下記の通りである。

	花 序	茎	萼片
ミズタマソウ	目立たない細毛がある	目立たない下向き細毛がある	緑 色
エゾミズタマソウ	剛毛がある	無毛	紅紫色

2. 同定を依頼されたものから

《 ママコナ 》

平取山岳会員で写真家のFさんが1枚の写真をもって訪ねてこられ、この花の名前を教えて欲しいとのことであった。写真を見たところツルニガクサみたいにも見えるのだが、葉や葉柄の様子がちょっと違うので生えている場所に案内してもらおうことにした。そこは義経公園の中を流れるオバウシナイ川左岸の斜面で、40~50株ほどが群生していたが、初めて見るものであった。持ち帰り調べてみたらゴマノハグサ科のママコナであった。

ママコナは、山地の林の縁などの乾いた場所に生える半寄生植物である。主な特徴は、①苞葉に短毛があり、縁には著しい毛状の牙齒がある。②萼には毛が多く裂片が細く芒状に尖る。③下唇喉部に2つの白い米粒状の隆起がある。などである。

ママコナは、北海道には渡島管内にしか生育していないと思われていた植物で、しかも数が極めて少ないので絶滅危惧種に指定されている。その希少種のママコナが、ここ平取町にも生育していたのである。もちろん日高管内では初産であり、大発見である。ママコナは飯子菜で、その名の由来は、下唇喉部にある白斑の隆起を米粒に見立てたとも、若い種子が米粒そっくりなところからともいわれる。

《 カワヂシャ 》

近くのNさんが、沙流川河口の湿地状の沖積地（扇状地）で見つけたという草花を持ってこられたのである。様形はエゾノカワヂシャに似るが花の色は白で、茎はエゾノカワヂシャのようにつるは出さず、花序や花柄には腺毛が混じるものであった。調べてみると川岸や田などの湿地に生える越年草のカワヂシャであった。本来なら北海道にはない花で、分布は本州、四国、九州、琉球、台湾、朝鮮、中国、などとなっている。こうなるとここに生えているカワヂシャはどこから渡来してきたのか気になるのであるが、採集地が沙流川流域であること、国内だけでなく朝鮮や中国にも分布していることなどから、やはり朝鮮や中国からの外来種なのかなと思うのである。

以下はエゾノカワヂシャとカワヂシャの対比である。

	葉柄	花の色	茎	花序や花柄
エゾノカワヂシャ	短い柄	薄紫	下部は長く蔓	細毛
カワヂシャ	無柄で茎を抱く	白	つるは出さない	腺毛

新冠町の判官館の周辺に（新冠川の河口）、ヨーロッパ原産のカワヂシャモドキが帰化していると報告されている。図鑑によると、この植物もカワヂシャによく似ているが、カワヂシャの花柄には腺毛があるのに対してカワヂシャモドキは無毛となっていることと、前者の果実は長さも幅も同じで2～3mm、後者の果実は長さは2～3mmであるが幅は2.5～3.5mmと長さより幅が少し広いことで区別できるとある。

(2015.1.27)

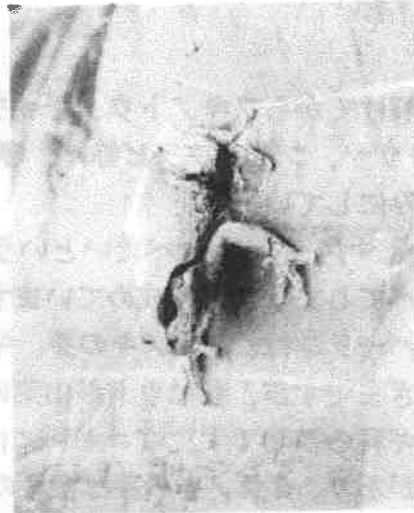
カエル 蛙 蛤 蝦 英 frog アイヌ語 ニホンアマガエル チホノラン エゾアカガエル テルケイ⁶
 カエルは両性類のなかの無尾目に属し、ヒキガエル科・アマガエル科・アカガエル科・アオガエル科・ヒメガエル科などに分類される。世界的には25科334属3970種が報告されていて両性類のなかでは最大である。まだ未知の部分が多く最近になって新種が報告されている。日本には37種5亜科の報告があるが、世界の1%にすぎない。北海道には古来から生息するニホンアマガエルとエゾアカガエルの2種であるが人為的に移入されたツチガエル・トノサマガエル・ウシガエル・アズマヒキガエルの計6種が生息する。最近、野幌森林公園ではツチガエルが増えてエゾアカガエルと置き換わることが心配される。6種に共通することは① 呼吸は大部分を皮膚呼吸し一部を肺で呼吸している。② 横隔膜がないため口の中の空気を飲み込んで肺に送る。③ 水分は皮膚から吸収する。④ 卵～幼生(オタマジャクシ)～成体へと変態する。⑤ 後脚が発達していて飛び跳ねるのが得意である。⑥ 後脚に水かきがあり泳ぎが得意である。⑦ 餌は昆虫が主である。⑧ 餌を見つけると長い舌を伸ばしてひっつけて捕獲し素早く口に入れる。⑨ 餌を飲み込むときは目玉を引っ込めて目玉で胃に押し下げる。⑩ 異物を飲み込んだ場合胃袋を吐き出して胃を洗う。⑪ 雄が繁殖期に鳴のうを膨らませて肺との間の空気をいったりきたりさせて声帯を震わせて鳴き雌を誘う。⑫ 鼓膜は目の後にあり聴力は良い。⑬ 視力はあまりよくない。⑭ どの種も多かれ少なかれ耳腺や皮膚から毒を出して護身しているので触れた場合は手をよく洗う。

和名	ニホンアマガエル	エゾアカガエル	ツチガエル	トノサマガエル	ウシガエル	アズマヒキガエル
学名	H. Japonica	R. Pirica	R. Rugosa	R. Nigromaculata	R. Catesbeiana	B. Japonicus
属名の意味	Hyla森	カエル	カエル	カエル	カエル	ヒキガエル
種小名の意味	日本の	美しい(アイヌ語)	しわがある	黒い斑がある	人名(catesby)	日本の
産卵時期	6～7月中旬	4月中旬～5月	5月～8月	5月～8月	6月～8月	5月～6月
1腹の産卵数	200～800を 小塊に分割産卵	360～920個を 1塊りに産卵	1000個程度を60 以下の塊か1個 づつ産卵	1800～3000個を 1塊りに産卵	6000～40000個を 1塊りに産卵	1500～8000個を 5mlにもなる紐状 の袋に産卵
卵の直径	1.2mm	1.5～2.0mm	0.8～1.0mm	1.4～2.0mm	1.2～1.4mm	2.0～2.5mm
ふ化直後の幼生 最大全長	～5.3cm	～5.5cm	～8.0cm	～7.0cm	～17.0cm	～3.0cm
変態時期(幼生で 越冬)	6月下旬～8月中旬 (無)	7月～9月 (水温10℃以下有)	5月～9月 (殆んど有)	7月～9月 (無)	寛年の夏以降 (殆んど有)	7月～8月 (無)
変態直後の尾を 除いた全長	1.5cm	1.5cm	2.0～2.5cm	2.0～3.0cm	3.5～6.0cm	0.6～1.0cm
成体♂全長	2.3～3.9cm	4.5～5.5cm	3.7～4.6cm	3.8～8.1cm	11.0～18.0cm	4.3～16.0cm
成体♀全長	2.64～5cm	5.0～7.5cm	4.45～.3cm	6.3～9.5cm	12.0～18.5cm	5.3～16.2cm
みだけの特徴	① 鳴のう×1 ② 指に吸盤	① 鳴のう×2 ② 親指付け根に 婚姻瘤	① 鳴のう×1 ② 親指付け根に 婚姻瘤	① 鳴のう×2 ② 親指付け根に 婚姻瘤	① 鳴のう×2 ② 親指付け根に 婚姻瘤	① 鳴のうが無い ② 親指と第3指 の付け根に婚姻瘤
みの鳴き声	① 雄だけが発情 期に鳴く ② クワッ クワッ ③ クワッ クワッ	① 雄だけが発情 期に鳴く ② クーワッ クー ワッ	① 雄だけが発情 期に鳴く ② ギーコ	① 雄だけが発情 期に鳴く ② グルル	① 雄だけが発情 期に鳴く ② プオオー	① 雄だけが発情 期に鳴く ③ グググ
生息地	全道 古来から生息	全道 古来から生息	石狩低地帯以南 人為移入	札幌周辺 人為移入	局所的 人為移入	南西部 人為移入
その他の特徴	① 植物に登る ② 生息場所に関 わらず体色を変化 させる ③ 繁殖期の雄の 喉は黒くなる	① 北海道固有 ② 鳴き声が美し い	① 青中に疣 ② 疣から墨臭を 出す ③ 逃げ足が速い ④ 別名イボガエ ル	① 最近生息地を 広げている ② 青中に緑色の 縦帯	① 日本在来種中 最大 ② 食用ガエル	① 目の後ろに耳 腺があり毒を出す (フホートキシン) 学名由来

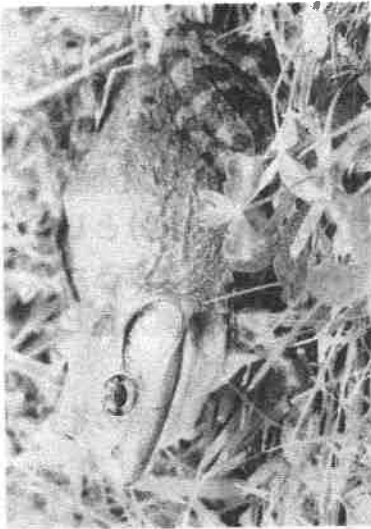
各地の呼び名 北海道=ビッキ 青森=モツケ 福島=ゲール 群馬=ゲーロ 福井=ギヤル
 島根=ギャーコ 広島=ヒキ 長崎=ドンク 熊本=タンギャク 鹿児島=ドンコビ 沖縄=タビー



エゾアカガエル



ニホンアマガエル



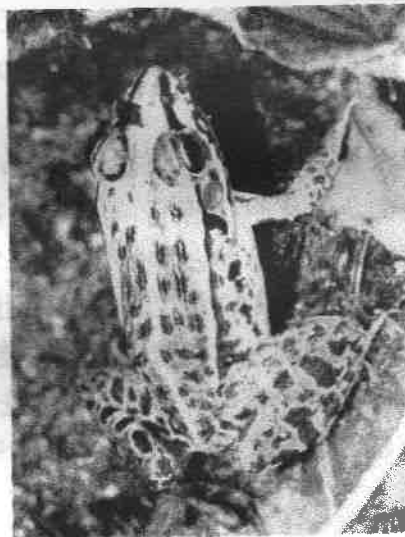
ウシガエル



ツチガエル



アズマヒキガエル



トノサマガエル

「ウドの大木」考

札幌市東区 田村 允都

毎年、雪が解けてからフキノトウ、ギョウジャニンニク、タラノキの芽、タケノコ(チシマザサ)、ユキザサ、フキ、ワラビ等々、春の恵みをほんの少し山菜として採り食べることを大きな楽しみにしています。

山菜は沢山食わず、もっと食べたいという所でやめておくべきと思うのですが、ついつい多めに採り食べてしまうことを戒めています、食い気にいつも負けてしまいます。

山菜のナンバーワンは、タラノキの芽、ギョウジャニンニク、タケノコ、フキなどその人によってさまざまですが、私はウドが山菜の王様だと思っています。

ウドはウコギ科の植物です。ウコギ科にはウドの他にタラノキ、コシアブラ、ハリギリ、エゾウコギ等があり、タラノキの芽は多くの人が採り、コシアブラの新芽は東北地方では山菜として珍重され、ハリギリの幼木の頂芽も山菜として食べられ、エゾウコギも山菜や薬草として採取されていることはご存じの通りです。

ウドの語源は、草丈が高くなり、柔らかく風がなくとも自ら揺れているように見えるので「うごく→どく→うど」と訛って名付けられたとか、土の中の芽を食べる「埋(うず)」から転じたなど様々な説があり、漢字でも動く様子から「独活」の字があてられたとの説があります。ウドは新芽や葉はテンブラ、茎の芯は酢味噌、茎の皮はキンピラと古くより救荒植物(飢饉その他食料が不足した時、それをしのぐ間のために食料として利用される植物)として重宝されてきました。また微量ですが疲労回復のアスパラギン酸や肝臓によいとされるコリンが含まれています。また、茎が枯れる秋の時期、根を掘り上げ乾燥したものは漢方薬となり、解熱、鎮痛、めまい、神経痛、リウマチの薬効があるといわれています。

アイヌの人々はウドを「チマロキナ」(かさぶたの草)と呼び、根をすりつぶしたものを打ち身の湿布薬として用い、茎や葉を食料とすることはしなかったとのこと。

ウコギ科タラノキ属のウドは沢沿いや湿地、崩壊地でよく見られるので、探すポイントになります。葉は二回羽状複葉で互生です。また、花の上部は両性花で下部は雄花であるため上部にのみ黒く熟す多肉質の漿果をつけるのはご存じの通りです。

ところで、誰もが知っているウドにまつわる諺「ウドの大木」がありますが、その意味するところを辞書で調べると、

「ウドの茎は木のように長くなるが、柔らかく役に立たぬことから、体ばかり大きくて役に立たない人のたとえ」(広辞苑 岩波)とあります。この意味するところは理解できますが、ウド(草本)は大木(木本)かとの疑問がわいてきます。かつてボラレンの大先輩佐々木幸夫氏も、このことを指摘していたことを思い出します。ウド「の」大木の助詞「の」についての文法上の用法は格助詞として次のように使われるとの説明があります。

- ・あとに来る言葉の内容や状態性質などを限定する(例 革のカバン)
- ・同格であることを表す(例 友だちの田中君)

いずれにしても、この諺を意地悪く読むと、草本(ウド)は木本(大木)かになってしまいます。そこで、この諺の背景や成立過程を調べてその結果を3点にまとめてみました。

1. 慣用句として

ネットで検索(Wikipedia)すると次の解説があります。「ウドは2~3mの大きさに育つが、育った頃には木材にも適さないということから、転じて、図体はでかいが中身が伴わず役に立たない者のたとえ、ただしウドは樹木ではなく草本の一種である」との記述があります。確かにウドは草本の一つですが、成長すると外見が木のように立派に見えます。しかし、若いうちとは違い食べにくく、しかも茎は柔らかいので他に使い道もない。そんなところから、広辞苑に代表されるような意味として多くの人達に理解されていたのでしょう

2. 洞(うろ)からウドへ転化

一説によると「洞(うろ)の大木」が本来の諺ではないかということです。中が空洞の木はいくら幹が太く大きくても材として価値が下がりあまり役に立ちません。そんな所からいつの間にか「うろ」が「ウド」に変化し、草本のウドに結びついてしまったという説です。

3. ウドの木

ウドという樹木があります。オシロイバナ科の常緑高木です。日本では沖縄諸島や小笠原諸島、外国では台湾やマレーシア、オーストラリア東部、ミクロネシア、ポリネシアに分布していて、海岸沿いの熱帯雨林に生え、高さが8~10m以上になります。葉は楕円形で互生または対生で群生します。成長が早いのですが、材質は非常に柔らかく用材として役に立たないところから、「ウドの大木」のウドはこの木を指すのではという説です。

ことわざ「ウドの大木」のいわれを調べると、ウドに対する興味関心が深まってきて、やはりウドは山菜の王様との想いがますます強くなります。

ウドに限らず、雪国の北海道や秋田、青森、山形の山菜はおいしいといわれています。それは雪の下でエネルギーを蓄え、芽だしの準備をして、雪解けとともに一気に地上に顔をだします。だから雪国の山菜はおいしいのです。

山菜を採るため自然の中を歩き回することは、運動として体に良いばかりではなく、自然に親しみ、自然を理解する上でも意義のあることです。しかし採るという行為に熱中するあまりに根こそぎ持っていくことは厳に慎まねばならぬことです。勿論、公園など採ってはならぬところは言うに及ばず、謙虚な気持ちで山菜採りをする、そんな気持ちを持ち続けたいと自戒しています。

注 ウドに含まれる薬効成分

・クロロゲン酸

抗酸化性を示す物質で、ガンの発生予防や日焼けによるメラニンの抑制効果

・アスパラギン酸

疲れにくく抵抗力を保つ働きや、アンモニアなどの有害物質を排出させる効果

・ジテルペンアルデヒド

血液循環をよくし疲労回復に役立つ効果

(話題提供)

屯田防風林自然あれこれ

平成27年4月22日 井澤清美

【はじめに】

屯田防風林は、明治時代に季節風から農作物を守るため屯田兵がコの字型に自然林を残して作られた札幌市北区にある防風林（全長約8km）。このうち、新琴似地区と屯田地区の境界域（約3km）は通称「ポプラ通り」と呼ばれ、一般に「屯田防風林」といえばこの「ポプラ通り」のことをいう。

昔は、防風林を境に水田と畑が広がる豊かな農村地帯だったが高度経済成長時代になって地域の状況は大きく変わり、農地は姿を消し住宅地が大きく広がった。それに伴い大型商業施設ができるなど市街化が急速に進み、防風林の役割も風から農作物を守ることから地域住民の憩いと散策の場へと大きく変わった。

【江戸末期頃の時代背景】

幕末頃の極東は、イギリス、フランス、ロシア、アメリカなど列強の覇権争いの舞台となっていた。また、樺太、千島は領有が不明確な空白地帯でロシア南下の対策は急務となっていた。しかし、蝦夷地における幕府の治政は、道南以外はあまり及んでいなかった。

このような中、札幌本府の建設は急がれていた。しかし、中心部の建設は一気には進まず、先に入植して開発が進んでいた篠路村（現北区）、札幌村（現東区）など周辺村落を足掛かりに開発が進められる状況にあった。札幌周辺の屯田兵の入植はこのような中で行われた。

【屯田兵の入植】

屯田兵は、北海道の警備と農業開拓との二つの任務を兼ねた土着兵団で一般に士族屯田、平民屯田と称されるが実態はこれらの混成。（明37の制度廃止までの入植兵村数37、入植戸数7337戸（資料により数値に多少の違い））

- 琴似兵村（明8 最初）
- 新琴似兵村（明20,21）
- 篠路兵村（明22）
- 士別兵村（明32 最後）

【屯田防風林】

大3 大正天皇即位記念事業として篠路兵村会が中島橋～第二横道路間(1296m)にポプラ7000本植樹

昭10 ポプラ、ドイツトウヒ、ヤチダモ植樹(これが現在の林相を形づくる主要樹種)

昭50 荒れ放題になっていた防風林を危ぐした町内会、PTAなどが営林署や市に働きかけて、欠落樹の補植とサクラやシラカバなどの植樹実施(このほかにも何回か補植されている)

【屯田防風林の自然】

樹木(ハルニレ、ミズナラ、キハダ、ハリギリ、ミズキ、ハンノキ、ヤマグワ、ズミ、オニグルミ、エゾヤマザクラ、クリ、ヤチダモ)
(注:アンダーラインは植樹木でも)

植樹木(ポプラ、カツラ、シラカバ、コブシ、ドイツトウヒ、ナナカマド、ニセアカシア、チョウセンゴヨウ)

草本(ミズバショウ、オニシモツケ、オオハナウド、レンブクソウ、エゾエンゴサク、クルマバソウ、アズマイチゲ、エゾタンポポ、エゾスズラン、オオウバユリ、マイズルソウ、コケイラン)

外部侵入植物・移植(オオハンゴンソウ、ニオイスマレ、エゾエノキ、ミツバアケビ)

茸(ヒラタケ、ボリボリ、ヌメリスギタケ、タモギタケ、アミヒラタケ、ツチスギタケ、ベニテングタケ)

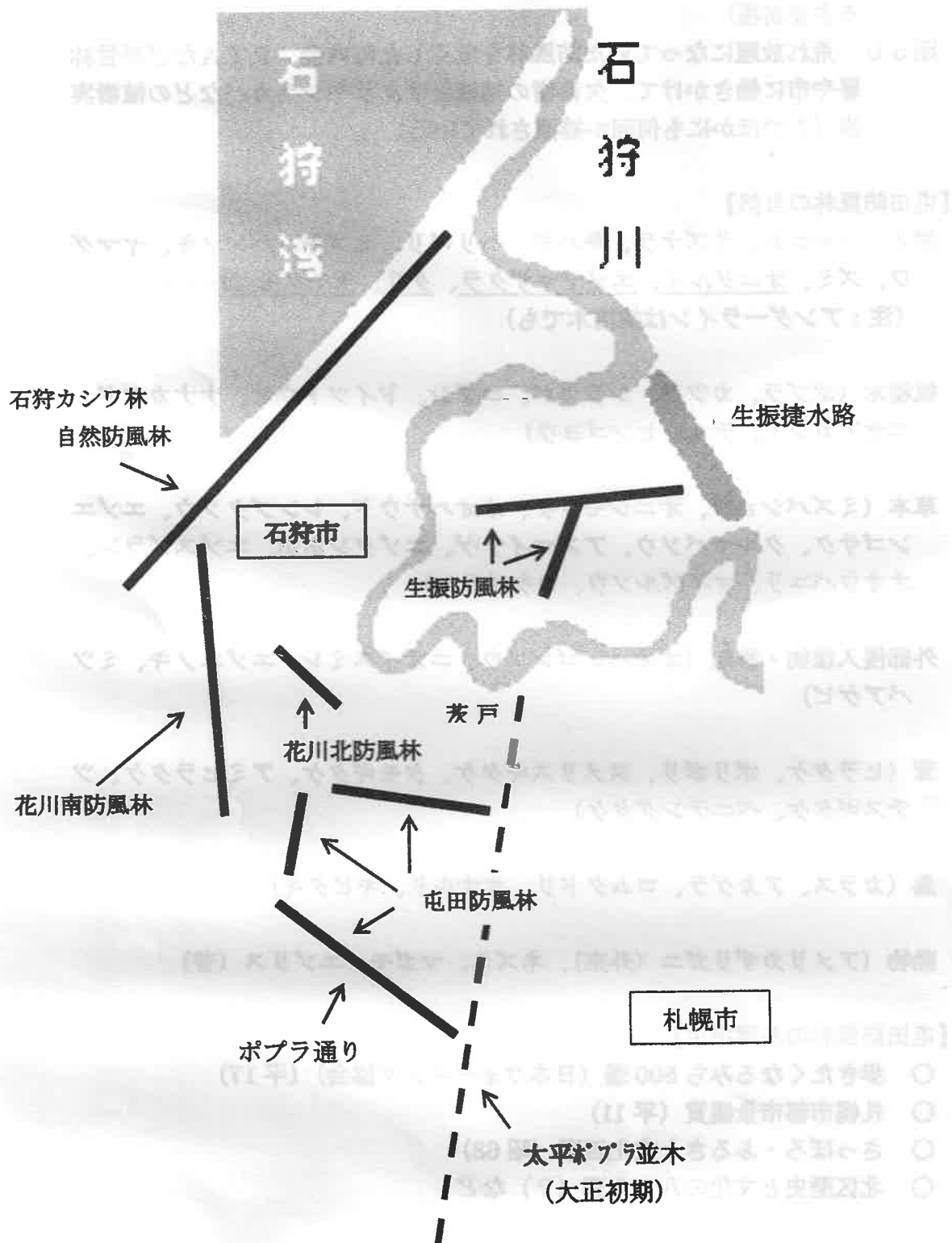
鳥(カラス、アカゲラ、コムクドリ、オオルリ、キビタキ)

動物(アメリカザリガニ(外来)、ネズミ、マガモ、エゾリス(昔))

【屯田防風林の各種指定】

- 歩きたくなるみち500選(日本ウォーキング協会)(平17)
- 札幌市都市景観賞(平11)
- さっぽろ・ふるさと文化百選(昭63)
- 北区歴史と文化の八十八選(?)など

石狩周辺の防風林配置図



気象と予報

北海道ボランティア レンジャー協議会 宮本 健市

気象とは、大気中の気温・気圧・水蒸気の種類などの変化により起こる大気の状態のこと。そして、それにより生じる大気現象（風、降水現象、雲、など）大きなものではジェット気流、台風などのことを指す。

大気は窒素、酸素、アルゴン、二酸化炭素などで構成されていて空気と呼んでいる。空気が存在する範囲を大気圏と呼び地表から100kmくらいまでで、上空にいくほど寒冷となる。

気温や気圧の変化は太陽エネルギーにより大気や海水、地面、雲などが暖められることにより対流が起こることと、地球が自転していることによるものである。空気は暖められると膨張して密度が小さくなり気圧が下がり軽くなりことで上昇する。反対に、冷やされると収縮して密度が大きくなり気圧が上がり重くなることで下降する。気象現象と気象予報の原点はここにある。

天気予報ができるまで。

- 1 気象観測をする。世界中に観測網があり、きめられた規則にもとづき、きめられた時間に一斉に観測し、世界中に発信している。日本では、管区气象台5か所、準管区气象台1か所、地方气象台49か所、測候所99か所、航空測候所10か所、アメダス1300か所、気象衛星、気象レーダー20か所、ウィンドプロファイラ31か所がある。

観測要素は

- ① 地上気象観測では（風向風速、視程、天気現象、雲、気温、露点温度、気圧など）
 - ② アメダス（風向風速、気温、日照時間、降水量、積雪量）17kmメッシュ
 - ③ 高層気象観測（風向風速、気温、湿度）16か所
 - ④ 気象衛星（可視画像、赤外線画像、水蒸気画像）
 - ⑤ ウィンドプロファイラ（上空の風向風速）
- 2 観測されたデータを集める。
 - 3 集まったデータを集約する。（天気図、スーパーコンピュータによる数値予報）
 - 4 集約してできた天気図などを全国の气象台などに配信し地方修正されて一般に発表される。

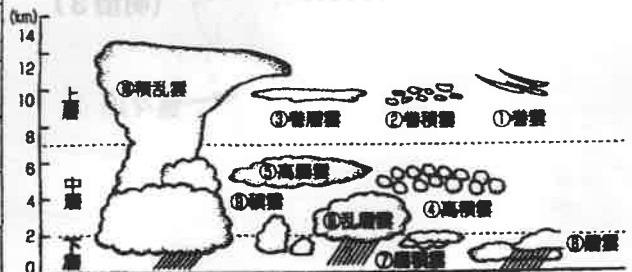
地上気象観測では、ほとんどの項目は観測機器が行うが、視程と雲の項目は目視による。

雲の観測

雲を観測することで、ある程度の気象の変化を読み取ることや、気象予報ができる。

10種雲形

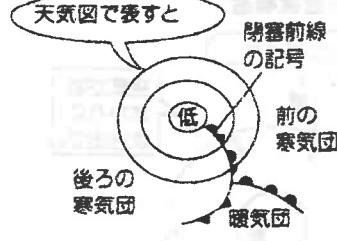
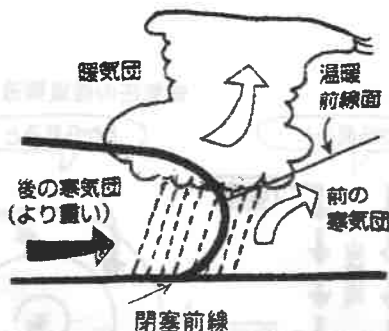
出現する高さ(温帯)による区分		名称	雲の特徴
上層雲	5000m以上	①巻雲	氷晶(氷の結晶)による雲で白色。晴天時に多い、すじ雲。
		②巻積雲	氷晶による粒状の雲。小さな塊が雲になって見える。まだら雲、いわし雲、さば雲。
		③巻層雲	氷晶による層状の雲。太陽や月のかさと呼ばれる輪が現れることがある。うす雲。
中層雲	2000m~7000m	④高積雲	比較的大きい塊状の雲が横並びに広がる。まだら雲、羊雲。
		⑤高層雲	灰色の厚ぼったい層状の雲。星は太陽がぼんやり見える。おぼろ雲。
		⑥乱層雲	暗い灰色で多くは一律な層状の雲。雨や雪を降らせる。
下層雲	地面付近~2000m	⑦層積雲	灰色または白色の塊状の雲が重なって広がる。
		⑧層雲	地面から数100mまで、灰色の層状で一様。雲の中に入ると霧や雨となる。
雲底に発達する雲	下層から雲頂は上層まで	⑨積雲	対流により発達した雲で、頂がドーム状、底は水平。綿雲、つみ雲。
		⑩積乱雲	積雲がさらに発達し、上部は氷晶からなる上層雲が広がる。かみなり雲。



(寒冷型閉塞)

より重い前の寒気団が暖気団を持ち上げ、後の寒気団は前の寒気団の上を滑りのぼる。

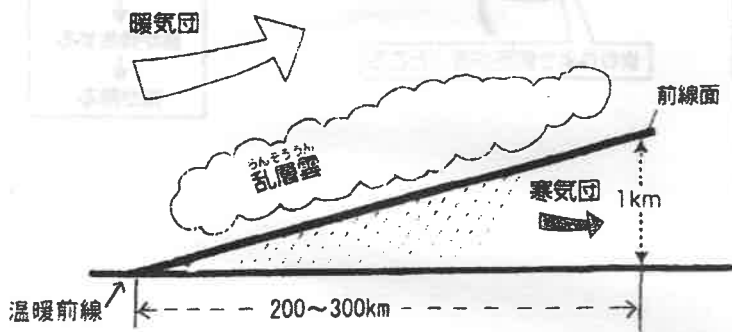
より重い後の寒気団が前の寒気団と暖気団を温暖前線ごと持ち上げる。



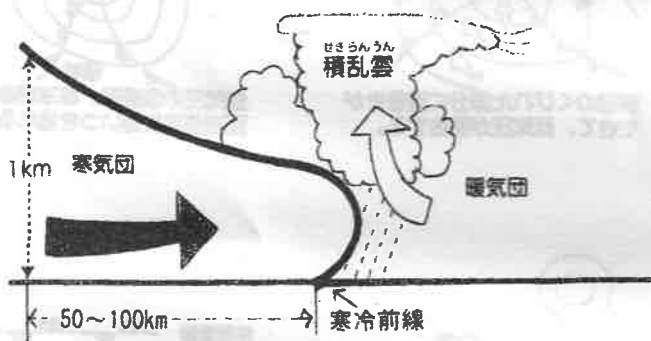
強いしゅう雨が降る

暖気団が寒気団の上をはい上がる。
 絶え間なく雨を降らせる。
 前線面の勾配は200~300分の1
 =降水範囲は広い。
 通過すると、気温が上がり、一時的に天気が回復する。
 低気圧の南東側にのびる。

C断面 (温暖前線)



D断面 (寒冷前線)



寒気団が暖気団を押し上げる。
 一時的に激しい雨や雪を起す。
 勾配は50~100分の1
 =降水範囲は狭い
 通過すると、気温が5°C以上低下することもある。
 低気圧の南西側にのびる。

気象庁の発表する予報の種類と発表時刻

現在は気象庁の発表する予報のほかに、民間の気象会社が発表する予報もあり、その種類も多種多様で一方的に押しつけられる時代から各自のニーズあった予報を選ぶ時代へと変化しつつある。

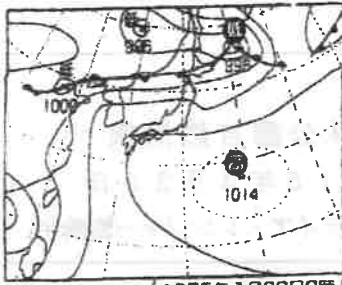
種類	予報時間(期間)	発表時刻	要素
降水ナウキャスト	10分ごと	随時	降水
降水短時間予報	1時間ごと	随時	降水
注意報・警報	随時	随時	(強風・大雨・洪水・大雪・風雪・波浪・高潮・乾燥・雷・霧・濃霧・着氷・着雪・雪崩・融雪・低温) 大雨・暴風・大雪・洪水・暴風雪・波浪・高潮
地域時系列予報	3時間ごと		天気・気温
地方天気分布予報	3時間ごと		天気・気温・降水
台風	6時間ごと	3.9.15.21時	72時間先までの進路・風速
週間予報	1日ごと	11時	7日先までの天気・降水確率・気温
1ヶ月予報	1ヶ月ごと	金曜日 1430	天気・降水確率・気温
3ヵ月予報	3ヵ月ごと	毎月20日 1400	天気・降水確率・気温
暖候期予報	6ヵ月ごと	3月10日 1400	夏のおおまかな天候
寒候期予報	6ヵ月ごと	10月9日 1400	冬のおおまかな天候
海の予報			波浪・海水温・海流・海水など

その他の予報

ピンポイント地点予報・ゴルフ場予報・スキー場予報・キャンプ場予報・釣り場予報・紅葉予報・桜開花予報
 花粉予報・洗濯予報・服装予報・お出かけ予報・星空予報・傘予報・紫外線予報・水道凍結予報
 風邪ひき予報・鍋予報・山の天気・海の天気

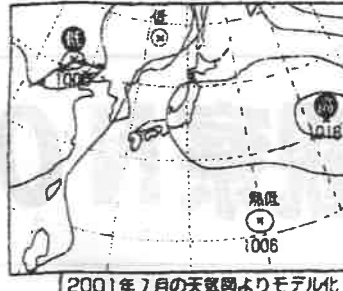
さまざまな気圧配置 (おおむね天気は西側から東側に移動する。LとHは互いを横切って移動しない。)

南高北低 (夏期) 北海道は悪天本州は好天



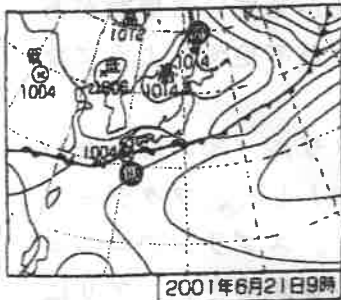
1975年7月30日9時

東高西低 (夏期) 全国的に好天



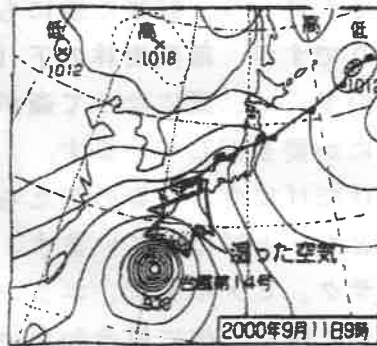
2001年7月の天気図よりモデル化

北高南低 (梅雨期) 本州は梅雨で悪天北海道は好天



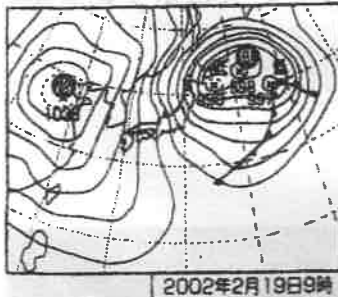
2001年6月21日9時

北高南低 (梅雨期) 集中豪雨



2000年9月11日9時

西高東低 (冬期)



2002年2月19日9時

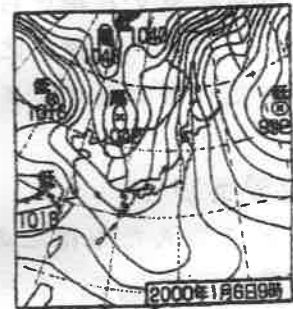
西高東低 (冬期)



2000年1月18日9時

岩見沢方面に降雪

西高東低 (冬期) 山雪型



2000年1月6日9時

札幌千歳方面に降雪

高気圧の種類と性質

- ・シベリア高気圧・・・非常に冷たく乾燥している。
- ・オホーツク高気圧・・・冷たく湿っている。
- ・揚子江高気圧・・・暖かく乾燥している。
- ・赤道高気圧・・・非常に暖かく湿っている。
- ・太平洋高気圧・・・暖かく湿っている。

どの高気圧の圏内かにより天気も変わる。

気象に関し観察会で注意を要する事項

- ・風・・・森林の中を歩くと折れた枝が落下する。(風速15m/sを超えると枝が折れる。)
- ・気温・・・熱中症は気温が23℃より上昇すると発症しやすい。特に風が弱く湿度が高く日差しが強いとき。子供や犬などは地面からの熱でダメージが大きい。年配者も体力的にダメージを受けるのが速い。(水分の補給と十分な休憩)
- ・落雷・・・雪崩(気温の上昇・樹木の生息しない場所)。低体温症(体温が35℃以下が長く続くと)
- ・落雷・・・天気が良くても地面が熱せられることによる熱雷。(雷雨に遭遇したら樹木の下特に45度以内には絶対に誘導しない。なるべく低地にしゃがむか伏せる。)電光から音までの時間を測り位置を知る。(音速0℃で331.4m/s。1℃気温が上昇すると0.6m/s早くなる。)
- ・花粉症・・・春のハンノキ・シラカンバ、夏のイネ科、初秋のヨモギ(雨上がりで気温が高とき、風が強いとき)

自然観察NOW

No.1

野幌森林公園自然情報

発行：2015年4月23日

北海道ボランティア・レンジャー協議会

春の花を見つけよう

北海道の永い冬が終わり、野幌の森にもようやく春がやってきました。木々はまだ芽吹き始めたばかりですが、落葉樹林の下（林床）には早くも花を咲かせている植物があります。これらの多くは、夏になって森が緑を深め、林床に届く光が不足するようになると、いつの間にか姿を消しています。

この短い命をけなげに生きる春の花たちは、スプリングエフェメラル（春のはかないもの、春の妖精とも）と呼ばれています。野幌の森の代表的なものとして、フクジュソウ、エゾエンゴサク、ヒメイチゲ、ニリンソウなどが挙げられます。スプリングエフェメラルには、早春に咲く、体に似合わない大きな花をつける、開花期間が長い、アリに種子を運んでもらう、地下茎を横に広げているなどといった特徴があります。それは、はかなげに見える花たちの、したたかな戦略なのです。詳しく知りたい方はボランティア・レンジャーの誰かに尋ねてみてください。

以下に代表的なスプリングエフェメラル3種を紹介します。

フクジュソウ

アイヌの人たちはこの花をチライアパツポ（イトウ・花）と呼んで、イトウが川に上ってくる時期の目安としていました。

日光が好きなのですが、半ば日かげの場所を好みます。明るくなると開き、暗くなると閉じます。光が当たると、花卉の根元の内側の細胞が成長するので、押し分けられて花が開き、暗くなると外側が成長して閉じるという性質があります。この開閉によって、大切な雌しべや雄しべを花びらで抱え込み、寒さから守っているのです。

早春には、花粉を運ぶハナアブやハナバチなどの虫たちもなかなか来てはくれません。そこで、花たちは大きく美しく装い、工夫をこらして虫を誘います。フクジュソウはパラボナアンテナのように光沢のある花びらをひろげていますね。これは、花の中心、ちょうど雌しべや雄しべのあたりに光を反射して、暖めるためなのです。その結果、花の内部は外気温より10度ほど高くなります。冬越しを終えたハナアブたちにとっても、暖と食が同時に得られる天国のような花なのです。

フクジュソウの種子もエゾエンゴサク、エンレイソウの種子と同じく、アリが好む成分（エライオソーム）を持っていて、巣の近くまで運ばれ、そこで芽を出します。



エゾエンゴサク

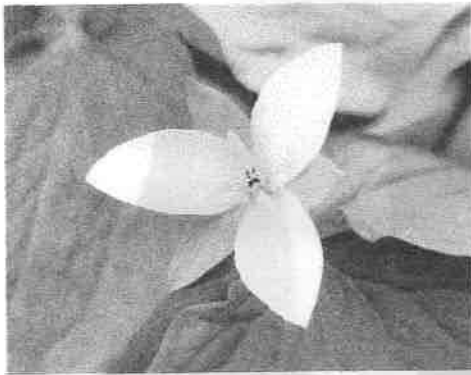
エゾエンゴサクは、地中に球形で小さな塊茎(かいけい)を持っています。アイヌの人たちはこの塊茎をトマと呼び、食糧にしていました。

花粉を運ぶのはハチ(マルハナバチ)ですが、ハチは気温が10℃以上にならないと活動しません。同じ株の花粉では種子がつかれない(自家不和合性)エゾエンゴサクにとっては大問題です。その解決法が開花期間です。まだ寒い4月に咲いた花の開花期間は20日以上もあります。ところが、5月初旬に咲いた花の開花期間は5日ほどしかありません。理由はわかりますね。

エゾエンゴサクの花色は濃～淡青紫色、紫紅色、白色などの変化が大きく、この花を観る楽しみの一つになっています。写真の上の花は白色、下の花は淡青色です。



オオバナノエンレイソウ



属名を *Trillium* (tri は3を意味する) といい、花図式をみると、内側から、雄しべ内3、外3、花びら3、萼3、葉3というように、すべて三つずつそろっています。

夏になると葉を枯らし、実を結びます。完熟した実は甘く、アイヌの人たちはエマウリと呼んでいました。

種子が落ちると、翌春は根が出るだけで終わります。翌々年になってはじめて発芽し、1枚の葉をつけます。成長はきわめて遅く、1枚葉の状態が数年続きます。

さらに3枚葉の状態が数年、花が咲くまでには15年くらいかかるといわれています。

北海道にあるエンレイソウ属はオオバナノエンレイソウ、エンレイソウ、ミヤマエンレイソウの三種を基本種としています。雑種ができやすく、オオバナとミヤマからシラオイエンレイソウが、エンレイソウとオオバナからトカチエンレイソウが、エンレイソウとミヤマからヒダカエンレイソウができることがわかっています。野幌の森にも、雑種の存在が確認されていますので、ぜひ、探してみてください。

(文責 北海道ボランティア・レンジャー 三輪礼二郎)

5月の観察会

5月10日(日); 春のありがとう観察会(10:00~14:30)

集合場所: 自然ふれあい交流館

5月24日(日); 三角山登山観察会(10:00~14:30)

集合場所: 緑花会館登山口

自然観察NOW

№.2

野幌森林公園自然情報

発行：2015年5月10日

北海道ボランティア・レンジャー協議会

いつもと違う“森の楽しみ方”をしてみませんか？

皆さんが行く森には、どんな生き物がいますか？ エゾリス？ エゾフクロウ？
エゾアカガエル？ エゾマツ？ エゾエンゴサク？

そうした図鑑に載っている生きもの以外にも、私たちの周りにはたくさんの不思議な生き物がいると考えたことはありますか？

◆自然の中に顔を探してみよう！

森に入ったら、木の幹や樹肌、木の芽や枝、葉っぱの模様など、気になったものを、じ〜っと見てみましょう。

ほーら、だんだん何かの顔に見えてきませんか？



◆自然のもので顔を作ってみよう！

次は、落ちていた木の実や葉っぱなどを使って顔を作ってみましょう。目や鼻に似ているもの、何か変な形と思ったものを集めて、自由に組み合わせてみましょう。あなたにしか創造できない生き物が生まれてくるはずですよ。

作品が完成したら、名前を付けたり、どんな気持ちなのか一言セリフを考えても面白いかもしれません。

顔を作ることで、自然のものものの形や色は、とても多様であることに気付くことでしょう。なぜこのような形や色をしているのでしょうか。不思議ですね。



(文・写真：あんぱい たかし ゼロエミッション・アーティスト)

【6月の観察会のご案内】

- | | | |
|-------------|----------------------|-----------------|
| ※緑の新緑観察会 | 6月 7日(日)10:00~12:00 | 自然ふれあい交流館集合・解散 |
| ※北広島レクの森観察会 | 6月 28日(日)10:00~12:30 | 北広島レクの森駐車場集合・解散 |

5月の野幌の森は、ウグイスの声が森に響き、オオバナノエンレイソウなどの清楚な花々に満ち溢れていました。それが今は初夏6月、自然ふれあい交流館の裏の林では、初夏を告げるカッコウの声がさわやかに響いています。そして、エゾハルゼミの合唱の中に、森の中の花たちは次の花たちに夏へと交代をし始めています。今日は、次第に色濃くなっていく木々の中を歩いて、初夏の花々を見つめ、野鳥のさえずりにじっと耳をすまして、改めて野鳥の声を楽しんでみてはいかがでしょうか。

野幌の森に響く野鳥の声を聞く

◎ その声はだれ? ~その声の判別法:「聞きなし」~

鳥の鳴き声からその鳥の名を知りたいと思いませんか?

鳥の鳴き声には、“地鳴き”と“さえずり”があります。

“地鳴き”は雄・雌とも1年中鳴いていて、夫婦や家族のコミュニケーションや警戒音などの役目をします。それに対して、“さえずり”は雄が雌を引きつけるための求愛行動のためと、雄が自分の“なわばり宣言”をして、他の雄の立ち入りを禁止するための信号などをいいます。それだけに“さえずり”の鳴き声は“地鳴き”より複雑です。

例えば、ウグイスの“地鳴き”は「チャッチャ」ですが、“さえずり”は「ホー、ホケキョ」。ハシブトガラは、“地鳴き”「チチ、ジージー」、 “さえずり”は「チョチョチョチョ」。ゴジュウカラは、“地鳴き”は「ツイツイ」、 “さえずり”は「フィーフィーフィー」です。

さて、今回は“さえずり”を聞き分ける方法「聞きなし」を紹介します。

「聞きなし」とは、私たちが鳥の鳴き声を人の声に置き換えて覚えることを言います。

たくさんの鳥の「聞きなし」の一部を紹介しますね。

(鳥の名)	(さえずり)	(聞きなし)
・アオバト	アオーオ、アオー、アオー。	会おー、会おー。
・アカハラ	キョロン、キョロン。	カモン、カモン、チュー。
・イカル	キーコーキー。	お菊二十四。
・ウグイス	ホー、ホケキョ。	法、法華経。
・キビタキ	ピリリ、ピーチュリ、 ピッピプリ、ピッピプリ。	チョットコイ、チョットコイ、オーシンツク、 オーシンツク。
・センダイムシクイ	チョチョ、ピー。	焼酎一杯グイー。鶴千代君。ちかれたびー。
・トラツグミ	ヒーヒョー、ピーヒョー。	さびしい、さびしい。
・ヒガラ	ツピツピツピツピ。	ちびり、ちびり。つめてえ、つめてえ。
・ホオジロ	チッピツ、ピーチュー、 チュチュチュリチュチュ。	一筆啓上仕り候。 札幌ラーメン、みそラーメン。
・メジロ	チチュルチチュルチーチー。	長兵衛、忠兵衛、長忠兵衛。 チリチル、ミチル。

いつも野鳥の姿を探すことばかりに満足せずに、姿は見えなくても鳥の声に耳を傾けると、その鳥は“何という鳥?”を知る楽しみにつながり、更にその鳥への親しみも増すことでしょう。今すぐ「聞きなし」を試してみませんか?そして、自分のオリジナルの「聞きなし」も作ってみませんか?



(ツツドリ)

野幌の森の初夏の鳥たち

○ ツツドリ (筒鳥) カッコウ科 北海道(夏鳥) ※全国・九州以北で(夏鳥)

ちょうど今頃の季節、野幌の森の中から響く声。カッコウより早く初夏を伝える鳥。細長い尾と尖った翼。頭と喉・胸は濃い青灰色。腹は白く黒いまばらな横縞があり太い。雌には“赤色型”がある。「カッコウ」によく似るが小形。足指はカッコウの仲間に共通で、前2本、後2本。

(名前の由来) ポポ、ポポという太い鳴き声が、筒をたたく音のように聞こえるので「筒鳥」という。(鳴き声) は、“さえずり”を「ポポ・ポポ・ポポ」を繰り返す。“地鳴き”は「ピピピピ」。

北海道全域の森で繁殖し、オーストラリアで越冬する。カッコウのように巣を作らず、他の鳥の巣に“托卵”して子育てをしてもらう。相手はセンダイムシクイやウグイスなど。

北海道で見られるカッコウの仲間は4種。他にジュウイチとホトトギス。ホトトギスは道南のみ。

○ エゾセンニュウ (蝦夷潜入・蝦夷仙入・蝦夷仙遊) センニュウ科 北海道(夏鳥)

※本州中部以北(旅鳥)。国内の繁殖は北海道のみ。体は全体的に茶褐色基調の色彩。

(名前の由来)「センニュウ」は草むらの中にいつも潜んでいるので「潜入」。また、草むらの中を自由に動いて暮らしているその様子が「仙人」のようだからなど所説がある。

(鳴き声) は、“さえずり”が「チョッ、ピン、チャカチカ」と、繁殖期には夕方から早朝にかけてよく通る声で鳴く。その鳴き声が「ホトトギス」の鳴き声に似ているので、「エゾホトトギス」とも呼ばれる。“地鳴き”は「タッ、タッ」、「ツリリ、ツリリ」。

北海道の人は、この“さえずり”の鳴き声を“聞きなし”で、「じょっぴん(錠を)かけたか?」という。確かに夜通し鳴くその声を聞いていると、その“聞きなし”はなるほどと頷ける。

野幌の森の初夏の花たち

○ ホオノキ (朴の木) モクレン科 花の色：白色 ※北海道の他に、全国に分布。

初夏に樹上高く、上向きに大きな白い花を咲かせる。雄しべ、雌しべの数が多く、長い花軸にらせん状に付くことから“原始的な植物”と言われる。

(名前の由来)この木の葉に食べ物を盛ったり、包んだりしたので「包(ほう)の木」となった。

(別名)ホオガシワ。花は芳香が強く、高い場所の花へと昆虫を誘う。葉には殺菌作用がある。

特に甲虫が媒介する花。モクレン科の花は蜜を出さない。花にやって来る昆虫たちの目当ては”花粉“。花粉を食べにくる昆虫が仲人を果たしている。この木の花と虫の“共生関係”が、最も古い時代に成立したと考えられている。

○ マムシグサ (蝮草) サトイモ科 花の色：緑色

※北海道の他に、全国に分布。北海道のものは、「コウライテンナンショウ」と呼ばれる型。実は熟すと赤くなる。葉の上で花序を付ける。毒草。

(名前の由来)茎に蝮のようなまだら模様があることから、「マムシ」の肌に見立てられた名。ハエの好む肉のような匂いを出して、ハエに受粉してもらう。成長につれて、雄から雌への”性転換“をする植物。株が小さい時は”雄株“、大きくなると”雌株“となる。



執筆 (道場 優 (どうじょう まさる))

★7月・8月の観察会

☆「芸術の森観察会」7月12日(日) 10:00~12:30 (集合：芸術の森入口バス停前)

☆「夏の森の観察会」8月6日(木) 10:00~13:30 (集合・解散：北海道開拓の村前)

ボランティア・レンジャー育成研修会

平成27年度 受講者募集!



北海道には豊かな自然がたくさんあります。この豊かな自然をより多くの人を楽しんでもらい、また自然環境を大切にしてもらうために「ボランティア・レンジャー（自然解説員）」が、各方面で活躍しています。

今年も自然ふれあい交流館や野幌森林公園をフィールドにして「ボランティア・レンジャー」を育成する研修会を開催します。「自然」に興味・関心がある方、自然の中でボランティア活動をやってみたい方など、初心者向けの内容となっていますのでお気軽にご参加下さい。

人と自然との橋渡し役でもある「ボランティア・レンジャー」になりませんか！

◇開催日 平成27年10月2日（金）～4日（日） 3日間の研修会です（雨天決行）

◇場所 自然ふれあい交流館、野幌森林公園

◇内容
 2日（金） 自然と楽しむ「アウトドアゲーム」・「ナイトウォッチング」、
 安全管理のための「救急法」、自然やガイド方法に関する「講演」
 3日（土） 自然体験・観察の「プログラム作成と解説方法」
 人と自然との関わり方の「観察会」
 4日（日） 「プログラムのフィールド発表」など
 ※詳しいプログラムは裏面に記載しております

◇費用 無料

※宿泊費、現地までの交通費、食事代などは各自負担願います
 ※各当日は原則、現地集合、現地解散となります
 ※自然ふれあい交流館（大沢口）の駐車場は無料

◇定員 30名（受付期間：7月1日～9月6日 定員になり次第締め切り致します）

◇対象 3日間通して参加できる方、満18歳以上で自然に興味・関心がある方

◇申込方法 ご希望の方は電話にて下記の必要事項を記入の上FAXでお送りいただくか、お電話で必要事項をお伝えの上、お申し込みください

◇その他 当研修会に受講された方には、受講証と自然解説員のバッジを交付いたします
 また「北海道ボランティア・レンジャー協議会」への入会も可能です（希望者のみ）

主催：自然ふれあい交流館 共催：北海道ボランティア・レンジャー協議会

★お問い合わせ・お申し込み★

野幌森林公園 自然ふれあい交流館 (<http://www.kaitaku.or.jp/nfpvc.htm>)

〒069-0832 江別市西野幌 685-1 電話) 011-386-5832 FAX) 011-388-7058

（キリトリ）

お申込される方は、下記の申込票にご記入いただき送付いただくか、記入内容を電話でお伝えください

ふりがな 氏名	性別 男・女	年齢 才
住所：〒	電話番号： 緊急連絡先（携帯電話等）：	
来館手段： 公共交通 ・ 自家用車 ・ 自転車 ・ 徒歩	職業：	

ボランティア・レンジャー育成研修会 2015**～プログラム～****○1日目【10月2日(金)】・・・場所：自然ふれあい交流館、野幌森林公園**

時間	内容
9:30～10:00	集合・受付（自然ふれあい交流館）
10:00～10:20	開講式・オリエンテーション
10:30～12:00	野外実習【アウトドアゲーム】 ≫自然とのふれあいを楽しむ
12:00～13:00	休憩（昼食）
13:00～16:00	救急法（普通救命講習1）
16:10～17:30	講義【自然ガイドで何を伝えるか】 講師：島田明英氏（自然ウォッチングセンター代表）
17:30～17:50	休憩
17:50～19:00	野外実習【ナイトウォッチング】
19:00	終了・解散

○2日目【10月3日(土)】・・・場所：自然ふれあい交流館、野幌森林公園

時間	内容
9:30～10:00	集合・受付（自然ふれあい交流館）
10:00～10:05	オリエンテーション
10:05～10:25	講義【リスクマネジメント】
10:25～12:20	野外実習【自然観察会】 ≫ボランティア・レンジャーの活動の実際 ≫自然体験活動の指導法
12:20～13:10	休憩
13:10～14:00	講義【自然について】
14:00～14:30	講義【プログラム作成と解説方法（導入）】
14:30～18:00	実習【プログラム作成と解説方法】 ≫模擬ミニ解説の実演 ≫グループワークによるプログラム作成
18:00	終了

○3日目【10月4日(日)】・・・場所：自然ふれあい交流館、野幌森林公園

時間	内容
9:30～10:00	集合・受付（自然ふれあい交流館）
10:00～10:10	オリエンテーション
10:10～12:00	実習【プログラム作成】 ≫グループワークによるプログラム作成
12:00～13:00	休憩（昼食）
13:00～15:00	発表【フィールド発表】
15:00～15:30	ふりかえり
15:30～16:00	まとめ・講義 【北海道ボランティア・レンジャー協議会と ボランティアを行うにあたって】
16:00～16:30	閉講式、解散

※天候や主催者側の都合により、プログラムを変更する場合があります

◇持ち物：野外活動に適した服装（長袖・長ズボン）、雨具、昼食・1日目夜の軽食など

◇アクセス：新札幌バスターミナル北レーン10番乗り場よりJR北海道バス「文京台循環線」乗車、

【文京台南町】下車、徒歩10分

☆お申込みされた方には、開催1ヶ月前を目途に詳細な内容・プログラムなどを送付いたします

指定管理者制度が導入され、一般財団法人北海道歴史文化財団が自然ふれあい交流館を管理運営しております

事務局だより

1. 平成27年度 運営委員（理事・役員）について

会長	春日 順雄	役員	
副会長	五十嵐 一夫（研修部 30周年記念事業）	新谷 良一（事務局）	
副会長	小林 英世（研修部）	安倍 隆（広報部）	
事務局長	三輪礼二郎	大表 順子（研修部）	
総務部長	三崎 篤	熊野 美子（広報部）	
研修部長	菅 美紀子	グローズ千鶴子（広報部）	
広報部長	内山 恭子	佐藤 清一（広報部）	
会計	松井 玲子	中林 光司（研修部）	
監査	高松 文雄	宮津 京子（研修部）	
監査	成田 伸一	室野 文男（事務局）	
顧問	佐々木 幸夫		
顧問	田村 允郁		

2. 保険について（札幌市社会福祉協議会の保険に加入）

①ボランティア活動保険について

ハガキの希望者（53名）について加入しました。Aタイプ
この保険は当会の事業における会員を守るための保険です。

②ボランティア活動等行事用保険 A型（宿泊を伴わない活動）

この保険は当会、主催観察会における一般参加者を守る保険です。

※いずれの場合も事故が発生した場合は事務局へ連絡願います。

3. オオハンゴンソウ防除へ参加しよう。

野幌森林公園のオオハンゴンソウの防除はボラレンが環境庁へ申請して防除主体になって行うイベントです。平成21年（2009）から始めて今年で7回目になり、遊歩道ではほとんどオオハンゴンソウの繁茂を見ることは無くなりました。しかし、まだ林内のオオハンゴンソウは防除しきれいていません。完璧には防除できないにしてもボラレンの環境保全の精神を維持する活動として参加しましょう。

平成27年7月5日（日） 9:30~12:30

集合場所 大沢口 自然ふれあい交流館 当日連絡先 自然ふれあい交流館 011-386-5832

4. 「話題提供」の内容について

話題提供は、共催観察会前日（下見の日）の9:45~10:15の30分間を予定して会員同士の研鑽のために行なわれます。

- 8月 5日（水） 室野 文男 氏 「地図について」
- 9月12日（土） 三井 茂 氏 「森林公園の今と昔」
- 10月14日（水） 高川 勝 氏 「未定」

編集後記

- ※ 今号も皆様より様々な原稿を頂きまして感謝いたします。お陰様で113号も無事発行できました。有難うございました。
- ※ オホーツク支部研修会をP6に掲載しています、野外バーベキューはサロマ湖のホタテが美味です、またワッカ原生花園では珍しい花との出会いも期待できます。
- ※ ボランティア・レンジャー育成研修会が10月2日～4日開催されます。この機会に皆様の協力でボラレンの輪を広げたいです。
- ※ 執筆をお願いしながらページの制約のため掲載出来ませんでした原稿は次号に繰り越しいたします。申し訳ありません。
- ※ 「会員の活動」ページを設けました。各地で活動をしている会員の方々、内容は問いませんのでA4サイズ1～2枚でお知らせ下さると有難いです。
- ※ 30周年記念講演会をP13に掲載しています。大勢の参加を期待します。
- ※ 会員皆様の原稿で作られている「エゾマツ」です。次号秋季号は10月末発行の予定です。原稿はA4サイズ、内容や文字は自由です。メールまたは郵便で下記までお願いいたします。締め切りは10月10日です。

Eメール ukhisui@kke.biglobe.ne.jp

〒 069-0841

江別市大麻元町164-39

内山恭子

【エゾマツ】 夏季号 113

2015年6月25日

会長 春日順雄